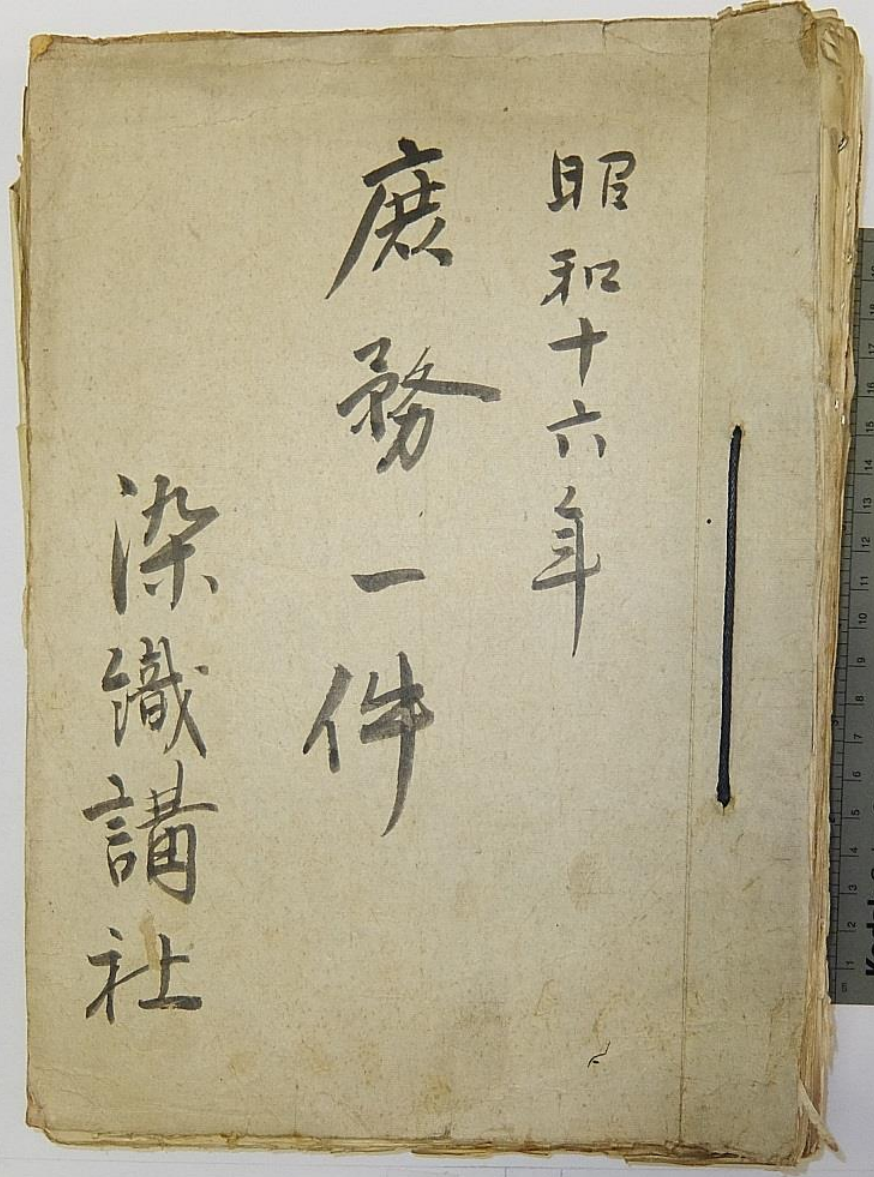


4-4　庶務一件　　昭和16年

一 講社員募集依頼
二 帝国動員令発令ニ伴ヒ講社員募集委員会ヲ開催ノ件
三 講社員募集委員会ヲ左記ノ通リ開催ス
四 名誉会長ヨリ訓令発送ノ件
五 事務ヲ円滑ニ処理スル為メ臨時事務所設置ノ件
六 名誉会長ヨリ指令ノ件
七 仮入講社員募集依頼
八 評議員ヘ協力依頼
九 事務委員ヘ協力依頼
一〇 神饌会ヘ玉串依頼
一一 会長ヨリ挨拶
一二 名誉会長ヨリ挨拶

染織講社

一三 各副物配付
一四 神饌会ヘ玉串ヲ出ス云ヒ出ス会
一五 団体分担金領収ノ上配付
一六 村知ノ予防地区建設指令
一七 出張ノ件
一八 帝国軍人援護会ヨリ依頼ノ件
一九 陳情ノ為メ出張ノ件
二〇 仮入講社ヲ本入講社ニ勧誘ノ件
二一 仮入講社ヲ本入講社ニ会セ
二二 小松織物同業組合ヘ敬弔通知
二三 団体講社員分担金ノ件
二四 会長ヨリ中村ヘ出張ノ件

4-4 庶務一件　昭和16年

二五 染織業事務合相表
二六 団体講習会申込書
二七 運動場兼体操用許可指令
二八 募集要項ノ様式
二九 商工会議所補助金特別会計予算使
三〇 理事会議事録
三一 事務局職員服務規程ノ件
三二 事補助金特別会計
三三 積立金使用
三四 託金品送付
三五 陳情書ノ件
三六 陳情ノ件
三七 託金品ノ配付
三八 振替貯金口座ノ件
三九 十五年度事業報告書提出
四〇 陳情書ノ件
四一 託金品送付
四二 団体講習会申込様式ノ件
四三 講義要旨ノ様式
四四 託金品受取、様式
四五 三業組合連合会助成金交付
四六 理事会議事録ノ件
四七 陳情書作成ノ件
四八 理事会案件

染織講社

四九　西陣織物工業組合七支代表
五〇　理事会、評議員会提出諒案一件
五一　理事選挙ニ関スル諸会名簿呈一件
五二　理事嘱託一件　府商工課ヨリ
五三　評議員ヨリ依頼一件
五四　小口踊一件　織園新地ニ劇場建設
五五　計画ニ付補助金申請一件
五六　三井銀行ヨリ当部ニ依頼
五七　市会会長斡旋ニ付一件

染織講社

昭和　年　月　日決裁　昭和　年　月　日發行　淨寫者　校合者

昭和十五年十二月十七日起案　起案者

會長
副會長

理事長

常任理事
理事

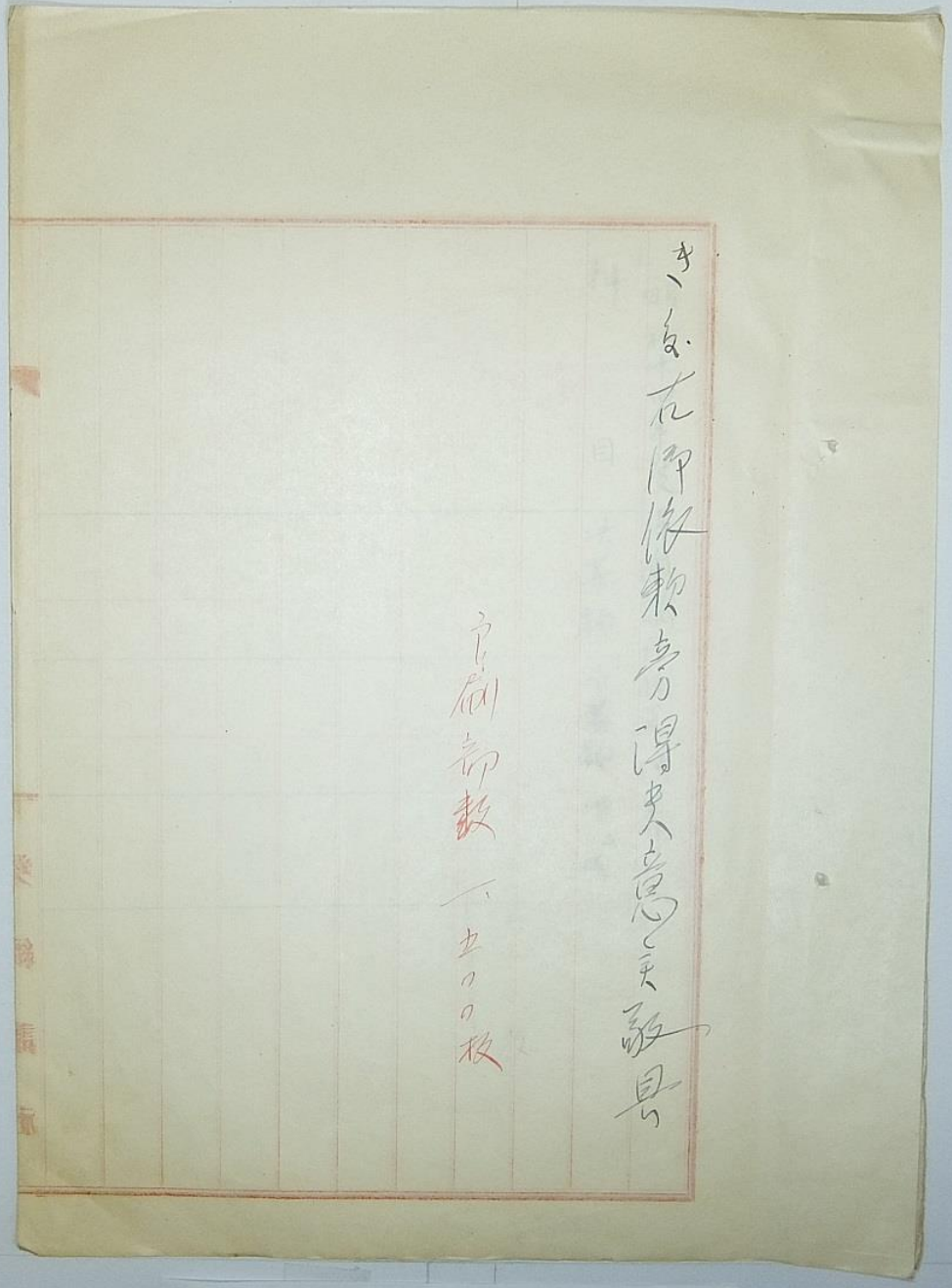
講社員募集依頼状案

昭和十六年一月　日

會長
市長

殿

御多忙の折柄陳者本講社等
業の益々隆昌を賀し且つ多大の御援助を賜りま
深謝を本講社も昨年を以て創立十周年
を迎へ社礎愈々堅実となり本年を以て第二
つまりなる春と秋とに挙行の慣例
は秀る四月十日に最も挙行致し時代
當初別は異なの現状を鑑み昨年同様之れ
を中止し其の代りとして神前の祓て平安朝
やうい花踊を奉納致すことゝなりまして同
下県準備中よりあり就ては真なる御連盛の
事とは存じますが本講社の趣旨御賛同の
下講社員として何卒特別の御援助を



4-4　庶務一件　　昭和16年

二

昭和十六年一月六日決裁　昭和十六年一月六日發行　淨寫者　校合者
昭和十六年一月六日起案　起案者

會長
副會長

理事長　代

常任理事
理事

幹事

南運動場兒科使用ノ件

會長名

南運動場兒科使用ノ件

昭和十六年四月十三日深川繊維祭挙行ノ
際ニ於テハ例年通リ岡崎公園市運動場
兒科使用ノ事ニ付テハ例年通リ許可
セラレ度此段申添ヘ

記

一使用期日　昭和十六年四月十三日ヨリ同月十七日迄

染織講社

昭和　年　月　日決裁　昭和16年1月6日發行　浄寫者　校合者

昭和十六年一月六日起案　起案者

會長　副會長　理事長　常任理事　理事

講社員募集要項ノ件

昭和　年　月　日

理事長

募集要項

お勧め申し講社員を以て申請の件

標記の事項に関しお申し込みを致し候

一、染織講社

一、講社員募集要項

一、講社員募集趣意書

一、講社員募集ポスター

一、講社員募集ビラ

一、講社員募集ハガキ

講社委員集委
株式会社帝国商店　高橋佐右衛
〃　羽田商店　羽田慶二
〃　鋼田商店　和田外一郎
外村呉服商店　小杉伊之助
◎
株式会社大橋商店　大橋常次郎
奥井呉服店商店　奥井平治郎
株式会社浅野商店　浅野金之助
酒巡長商店　西田乙次郎
河野栄助商店　河野栄助
合資会社加藤商店　田中平兵衛
株式会社吉田忠商店　中島秉一

染織講社

株式会社藤栄商店　村田光右衛
株式会社上田勘商店　小宮英造
株式会社式仁商店　折内清次郎
株式会社荒川益吉商店　荒川益吉郎
○△
株式会社島源商店　須田重三
株式会社田中久商店　田中久助
○△
長野清商店
株式会社美濃利商店　佐藤政時次郎
西陣織物卸業組合　小西栄次郎
西陣着尺織物業組合　北川儀兵衛
京都織物問屋同業組合　小林美樹
京都染物業組合　小宮良之助

四

昭和　年　月　日決裁　昭和　年　月　日發行　淨寫者　校合者

昭和十六年一月七日起案　起案者

會長
副會長

理事長

常任理事
理事

名譽會長轉任ニ付記念品贈呈ノ件

本講社名譽會長、京都府知事ニ西實三氏
今般栄転、京都府知事ニ轉任ニ付名譽會長
在職中慰労トシテ金四拾圓程度ノ記
念品（物品）贈呈可然哉

右御諮詢ス

九千月

稟議用紙

染織講社

昭和十六年一月九日起案

昭和十六年一月九日決裁　昭和十六年一月九日發行　淨寫者　校合者

會長　／
副會長　／

代　理事長　中村

常任理事　理事　起案者

稟議用紙

染織講社

染織講社會長殿

先年ヨリ貸座敷業者
寺井徹郎
お願ヒ御座候通リ今般同人ハ先般
御當社ニテ御設置ニ相成リ候染織講社ノ染織祭ノ時、代表者ノ列ノ代リ
ニ手安朝やすらい舞ヲ踊ヲ奉納ノ
事ト相成候ニ付テハ右ニ關スル費用ハ同人ヨリ寄附
致サセ度此段稟議候也

記

一、祭典日時　四月十二日午前十時
一、祭場　市公會堂本館階前（俗ニ言フ市運動場ニ變更スルコトアルベシ）
一、舞踊曰時　四月十二日午前十時
一、舞踊出場者休憩所　市公會堂本館一階

衣裳更衣所　市公會堂玄關一階

當衣裳の付属品一式當日午前九時
當地運搬致置候事

株式會社

六

昭和　年　月　日決裁　昭和十六年一月廿二日起案　昭和十六年一月廿三日發行　淨寫者　校合者

會長　副會長

理事長　常任理事　理事

起案者

稟議用紙　染織講社

名誉会長推戴ノ件

謹啓愈々清穆奉賀候陳者本講社ハ去ル昭和六年三月別紙趣意書ノ如ク組織シ爾来隆昌ノ歩ヲトシ染織業ヲ挙ケ内外ニ対シテハ実ニ我国中小商工業ノ中堅タルノ実ヲ発揮シ来リ候ニ付テハ此ノ際本講社ノ名誉会長ヲ推戴致度

七

昭和　年　月　日決裁　昭和十六年一月廿三日発行　浄寫者　校合者

昭和十六年一月十七日起案　起案者

會長
副會長

理事長　代

常任理事
理事

幹事

御人講社員募集依頼状最他送付件

年　月　日

殿

陳徴講社

追而講社員募集ニ関シテ毎ニ変ラザル御尽力ヲ煩シ度尚ホ左記ノ通御依頼申上候敬具

記

講社員依頼状　　追
〃　申込書　　枚
〃　封筒　　枚

待遇方法

十五年末講社員名簿　　冊

稟議用紙　染織講社

4-4　庶務一件　　昭和16年

發送先

名簿	待遇方法	計	申込書	依頼状
京都織物卸商業組合	五	五九	五九	五
京都染物業組合	五九	五九	五九	五
人絹織布生地卸組合	三	五	五	五
綿織物卸組合	一	五	五	五
京都染工組合	一	三	三	三
京都仁義店	一	五	五	五
依野金三郎	二	二	二	二
代仁義店	一	一二	一二	一二
竹内清次郎	一	一二	一二	一二
岡本織物卸商業組合	一	五五	五五	五五
加美喜右衛門				
西陣織物工業組合	一	一四	一四	一四
京都染工組合	一	五	五	五
西陣手機人織物工業組合	一	五	五	五
京都染工組合	一	五	五	五
京都織物卸商業組合	一	三五	三五	三五
京都染物業組合	一	三	三	三
計	一七	一三六	一三六	一三六

染織講社

昭和　年　月　日決裁　昭和十六年一月廿八日發行　淨寫者　校合者

昭和十六年一月七日起案　起案者

會長　副會長

理事長　常任理事　理事

稟議用紙　染織講社

謹啓愈御清穆奉賀陳者本講社は昭和六年二月別紙趣意書の下に組織し爾来陽春の候を擧行致來候處今般別紙の通り改正致度候條何卒御賛同の上御認可賜はり度此段稟議候也

昭和十六年一月

染織講社會長
京都市長

府認可
府庶務部長　御回
府庶務部長　龍卿
府警察部長　沼誠正
平安神宮宮司　寺田寛次郎
九條家家扶　伊藤泰一郎

染織講社趣意書

染織ニ關スル技術ハ世界各國ヲ通シ其淵源極メテ古ク我國ニ於テモ原始時代ニ既ニ其ノ道ノ開ケクリシハ想像ニ難カラサル所ニシテ其後歴世文化ノ影響ト洗練陶冶トヲ經テ漸次發達ノ域ニ進ミ殊ニ近代科學ノ進歩ハ機械ノ應用ヲ促進シ以テ今日ノ隆盛ヲ見ルニ至レリ染織業ハ今ヤ我國産業ノ樞位ヲ占メ其消長ハ國家及國民經濟上極メテ重大ナル關係ヲ有スルニ至リタルハ多言ヲ要セサル所ナリ抑々斯業ノ淵源ハ遠ク神代ノ昔ニ發セルハ明カニシテ吾人ハ始メテ染織ノ道ヲ拓キ之ヲ後世萬民ニ傳ヘ給ヒシ染織諸祖神ノ神恩ノ宏大無邊ナルヲ思ハサルヲ得ス殊ニ本府ニ於ケル産業ハ染織及之レニ關聯セルモノ其ノ樞軸ヲ占メ直接及間接之ニ依リテ生活スル者他地方ニ比シ實ニ多大ニシテ前記諸神ノ神恩ニ浴スルノ程度亦一層深シト謂ハサルヘカラス

然ルニ由來我京都ニハ四季ヲ通シ各神社ノ盛儀ナル祭事行ハレツヽアリト雖モ未タ府民ニ最モ關係深キ染織祖神ニ感謝ノ意ヲ捧クヘキ祭祀ニ乏シカリシハ誠ニ識者ノ深ク遺憾トセシ所ナリ依ツテ茲ニ有志相諮リ左記規約ニ依リ染織講社ノ設立ヲ發起シ毎年陽春ノ季ヲトシ染織祭ヲ行ヒ以テ我國染織諸祖神ノ御神徳ヲ宣揚シ其ノ洪恩ノ萬分ノ一ニ報ユル所アラムトス

冀クハ大方ノ諸賢奮ツテ本講社ノ趣意ニ翼賛加盟セラレ以テ其ノ所期ノ目的ヲ達成セシムル爲協戮アランコトヲ

祭神

天棚機姫神　天羽槌雄神
天日鷲神　長白羽神
津咋見神　保食神
栲幡千々姫命　吳織女（合祭）
漢織女（合祭）

染織講社規約

（昭和六年二月十六日設立）

第一條 本講社ハ染織講社ト稱ス

第二條 本講社ハ染織祖神ノ神徳ヲ宣揚シ敬神尊祖ノ美風ヲ涵養スルヲ以テ目的トス

第三條 本講社ハ前條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フ

一、染織祭ノ擧行
二、前項ト關聯スル施設

第四條 本講社ハ本部ヲ平安神宮内ニ置ク

第五條 本講社ハ第二條ノ目的ヲ翼賛スル者ヲ以テ之ヲ組織ス

第六條 本講社員ヲ左ノ三部ニ分ツ

第一部　染織業者ノ團体
第二部　染織ト關係アル團体
第三部　特ニ本講社ノ事業ヲ翼賛スル者及其ノ團体

第七條 本講社ニ加盟セントスル者ハ其ノ氏名（團体ニ在リテハ代表者ノ氏名及團体員數）ヲ記載シタル書面ニ依リ其ノ旨本會ニ申込ムヘシ前項ノ申込ヲ受ケタルトキハ會長ハ評議員會ノ決議ヲ經テ其ノ諾否ヲ定ム

第八條 本講社ニ左ノ役員ヲ置ク

會　長　一　名
副會長　一　名
評議員　若干名
理事長　一　名
常任理事　六　名
理　事　若干名

第九條 會長ハ京都市長、副會長ハ京都商工會議所會頭トス
評議員及理事ハ會長之ヲ委嘱ス
理事長ハ京都市助役、常任理事ハ京都染物同業組合代表者、西陣織物同業組合代表者、日本染織物見本市協會代表者、京都府商工水産課長、京都市産業課長、京都商工會議所事業課長ヲ以テ之ニ充テ會長委嘱ス

第十條 本講社ニ名譽會長及顧問ヲ置クコトヲ得
名譽會長ハ京都府知事ヲ推戴シ顧問ハ評議員會ノ承認ヲ得テ會長之ヲ嘱託ス

第十一條 會長ハ本講社ヲ總理ス
副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス
評議員ハ講社ノ機務ニ參與ス
理事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ講務ヲ處理ス

第十二條 役員ハ凡テ名譽職トス

第十三條 本講社ノ會議ハ評議員會及理事會ノ二種トス
評議員會ハ毎年一月會長之ヲ招集ス、但シ臨時必要アルトキハ其ノ都度之ヲ招集ス
理事會ハ會長ニ於テ必要ト認メタルトキ之ヲ招集ス

第十四條 評議員會及理事會ノ議決事項左ノ如シ

評議員會
一、規約ノ變更
二、豫算ノ議決及決算ノ承認
三、講務ニ關スル報告ノ承認

理事會
一、事業ノ執行ニ關スル事項
二、評議員會ニ附議スヘキ事項
三、會長ニ於テ必要ト認メタル事項

第十五條 本講社ノ經費ハ各講社員ノ分擔醵出シタルモノ及寄附金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條 本講社ノ會計年度ハ曆年ニ依ル

第十七條 本規約ノ施行ニ必要ナル細則ハ評議員會ノ議決ヲ經テ會長之ヲ定ム

4-4　庶務一件　　昭和16年

九

昭和　年　月　日決裁　昭和拾六年　月廿九日発行　浄寫者

昭和十六年一月廿四日起案　起案者

會長
副會長

理事長

常任理事
理事

校合者

評議用紙　染織講社

式典委員嘱託ノ件

年月日

會長名

殿

標題ノ件ニ付キ別紙ノ通リ市岡時公園市公会堂ニ於テ来ル四月十日例年通リ市岡時公園市公会堂ニ於テ来ル四月十日例年通リ市岡時公園市公会堂ニ於テ来ル四月十日例年

我典委員長　社務部長　和田寛
委　員　社寺掛　田村義雄
〃　村長　戸根貞治
〃　松尾神社宮司　菅貞幸
〃　手郡神社宮司　辻村豊宣
〃　手子神営祢宜　山本久七
〃　下内雲神社〃　出雲路敬豊
〃　鳥帽子神社〃　馬羽重節
〃　宗像神社〃　高屋定由
〃　熊野神社〃　岸本忠美
神饌会幹事　木村晴茂

染織講社

以上十一名

一〇

昭和　年　月　日決裁　昭和　年　月　日発行　浄寫者　校合者

昭和十六年　月　日起案　起案者

會長　副會長

理事長

常任理事　理事

染織祭ニ関スル件

年月日

染織講社会長

京都市長　名

京都府神職会長宛（社會局兼担當）

標記ノ件講社ヲ使用シ染織祭左記ノ通

決定致度ニ付テハ関スル件ヲ委員会ノ

上決定ヲ見次第通牒ヲ以テ通知相成

度此段申添ヘル

記

昭和十六年四月十日午前十時市公会堂本

館路次平前面

但シ式典ニ要スル費用ハ前年通リ

出町役員ニ於テ負担ス

染織講社

昭和拾六年壹月十九日 昭和拾六年壹月十九日

二月十七日 戒興委員会（午後一時 新高警察署講堂）

委員長　和田嘉氏
委員　田村義雄氏
〃　戸根貞治氏
〃　松尾神社　宮東幸氏
〃　加賀住神社　神尾清澄氏
〃　吉田神社　二宮正韶氏
〃　地御神社　松平静一氏
〃　平安神宮　山本久七氏
〃　下鴨神社　岩崎敬豊氏
〃　梅宮神社　鳥羽竜節氏
〃　宗像神社　高屋定由氏

染織講社

岩田光三郎氏
木村晴栄氏
〃　岡崎神社
〃　神泉苑

式典委員會打合せ事項

一、楽纖祭式典日時　四月十二日午前十時

二、仝　式典場所　市公會堂本館跡及其前面

三、式次第　別紙の通

四、時代風俗行列　皇國の現狀に鑑み中止す

五、平安朝時代やすらい花踊奉納

六、式典に關しては府神職會長に萬事一任致置候間御打合せ相成度

染織祭式次第

四月十二日　午前七時

午前十時祭主以下參列者着席
次　齋主齋員着席
次　修祓
次　降神　菅掻一同起立
次　神饌ヲ供ス　此間奏樂
次　幣物ヲ供ス
次　齋主祝詞ヲ奏ス　一同起立
次　祭主祭詞ヲ奏ス　一同起立
次　齋主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　齋員拜禮
次　祭主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都府知事玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都市長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都商工會議所會頭玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社理事長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社評議員代表玉串ヲ奉リテ拜禮
次　式典委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　祭事委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　來賓玉串ヲ奉リテ拜禮
次　參加各團體代表者玉串ヲ奉リテ拜禮
次　平安朝やすらい踊　奉納
次　神饌ヲ撤ス　此間奏樂
次　幣物ヲ撤ス　菅掻一同起立
次　諸員退下

4-4　庶務一件　昭和16年

平安朝やすらい花踊唱歌

ミヤコ
都の北の　ムラサキノ　今宮まうでの　ハナスガタ
エイエ　やすらい花や
トミグサ
富草の花やとみをせば　みくらの山にあまるまで
エイエ　やすらい花や
イノチ　ヨロヅヨ
命をこはば　ちよに千代萬代までも長らへむ
エイエ　やすらい花や
オリ　イウゼンゾメ
西陣織は山をなし　友禅染は海をこゆ
エイエ　やすらい花や

一一

昭和　年　月　日決裁　昭和　年　月　日發行　淨寫者　校合者

昭和十六年三月十八日起案　起案者

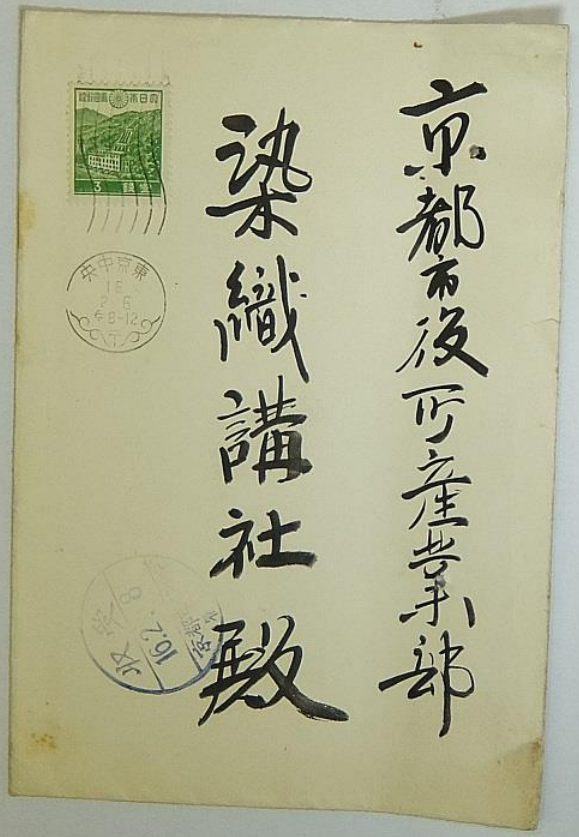
會長
副會長
理事長
常任理事
理事
幹事

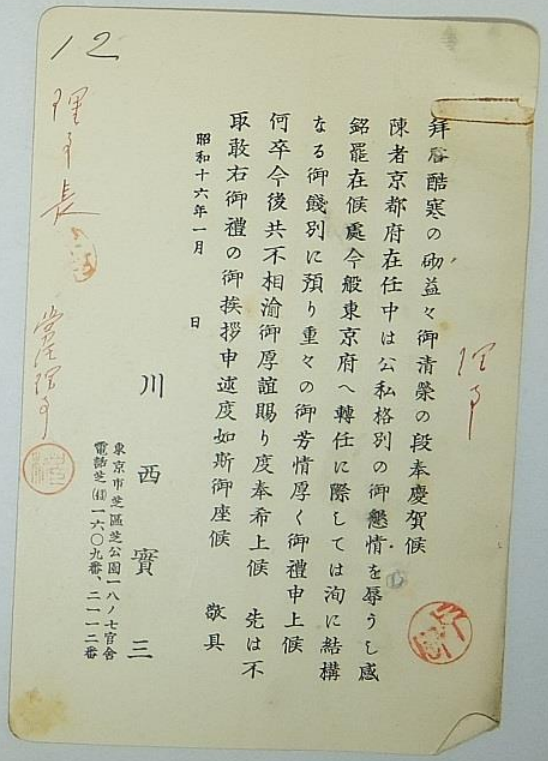
壹錢切手

壹錢郵便

壹錢郵便

壹錢郵便


京都市産業部
染織講社殿


拝啓酷寒の砌益々御清榮の段奉慶賀候
陳者京都府在任中は公私格別の御懇情を辱うし感
銘罷在候處今般東京府へ轉任に際しては洵に結構
なる御餞別に預り重々の御芳情厚く御禮申上候
何卒今後共不相渝御厚誼賜り度奉希上候　先は不
取敢右御禮の御挨拶申述度如斯御座候　敬具
昭和十六年一月　日
川西實三
東京市芝區芝公園一八ノ七官舎
電話芝(41)一六〇九番、二一一二番

昭和　年　月　日決裁　昭和十六年一月三日發行　淨寫者　校合者

昭和十六年二月一日起案　起案者

會長　副會長　理事長　常任理事　理事

講話會募集ニ要スル諸方刷物
發送ノ件

右ノ儀講話會ニ於テ別紙ノ通リ募集スルニ付テハ貴下ニ於テモ御承知ノ上適當ノ方法ヲ以テ御周旋相成度此段及御依頼候也

記

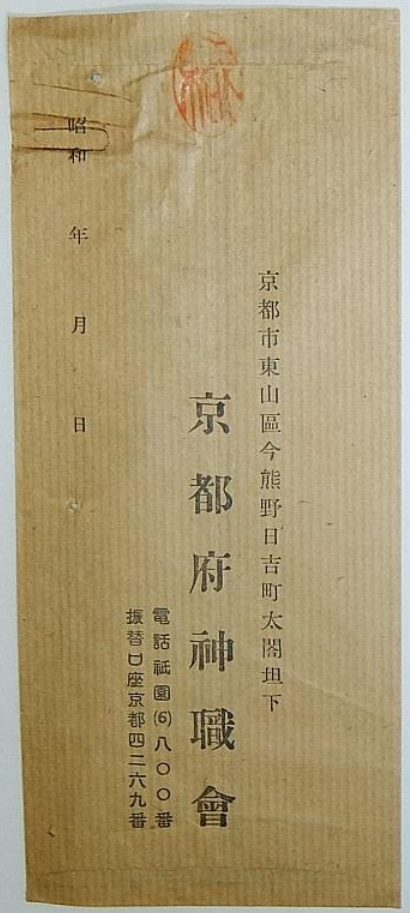
一　講話會申込書　四百枚
一　御知書　四百枚
一　講話會依頼状　四百枚
一　往復通信法　四百枚
一　封筒　四百枚

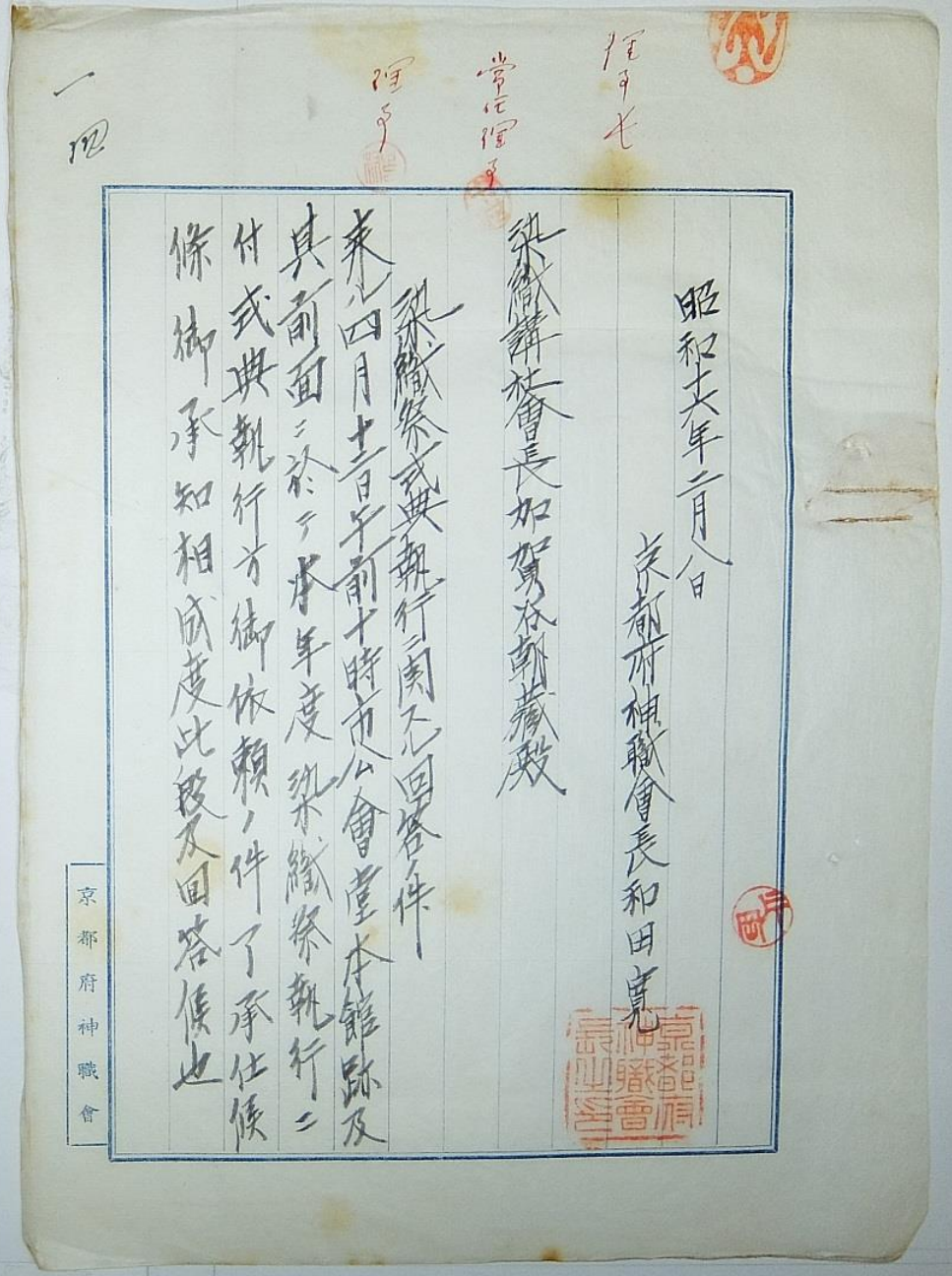
一

議案　市田南有、杉里ヒデ助教

稟議用紙　**染織講社**

4-4　庶務一件　昭和16年





4-4　庶務一件　　昭和16年

昭和　年　月　日決裁　昭和16年2月13日発行　浄寫者　校合者

昭和十六年二月十二日起案　起案者

會長
副會長

理事長

常任理事
理事

団体講社ヲ会組織ニ変更ノ件

昭和十六年二月十三日

団体講社ヲ会組織ニ変更ノ件

昭和十六年二月十二日

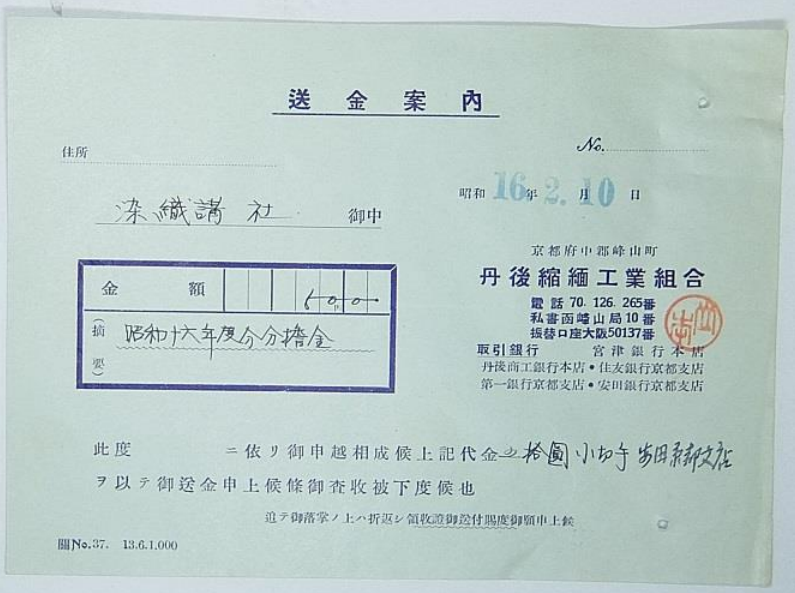
起案者

理事長

常任理事

理事





送金案内

住所

No.

昭和 16年 2月 10日

染織諸社 御中

京都府中郡峰山町
丹後縮緬工業組合
電話 70. 126. 265番
私書函峰山局 10番
振替口座大阪50137番
取引銀行 宮津銀行本店
丹後商工銀行本店・住友銀行京都支店
第一銀行京都支店・安田銀行京都支店

金額	600
(摘要)	昭和十六年度分分搾金

此度 ニ依リ御申越相成候上記代金ノ拾圓小切手当組合宛
ヲ以テ御送金申上候條御査收被下度候也

追テ御落掌ノ上ハ折返シ領收證御送付賜度御願申上候

圖No.37. 13.6.1.000

京都府指令土都第一〇一號

染織講社會長
京都市長加賀谷朝藏

昭和十六年二月十九日願風致地區內現狀變更ノ件許可ス

昭和十六年三月四日

京都府知事　安藤狂四郎

京都府印

京都府

昭和　年　月　日決裁　昭和16年2月19日発行　浄寫者　校合者

昭和十六年二月十九日起案　起案者

會長　副會長　理事長　常任理事　理事

風致地區内行爲許可申請ノ件

京都府知事　殿

風致地區内ノ爲許可申請

年月日

染織講社會長

京都市長　名

稟議用紙　染織講社

名称　事項

一申請者ノ住所氏名　京都市役所内　染織講社會長　加賀谷朝藏

二行爲地ノ所在及面積　岡崎公園市公會堂構内　公會堂旧事務所北側及其全面全部

三許可ヲ受ケントスル行爲及其目的　染織祭々場設備

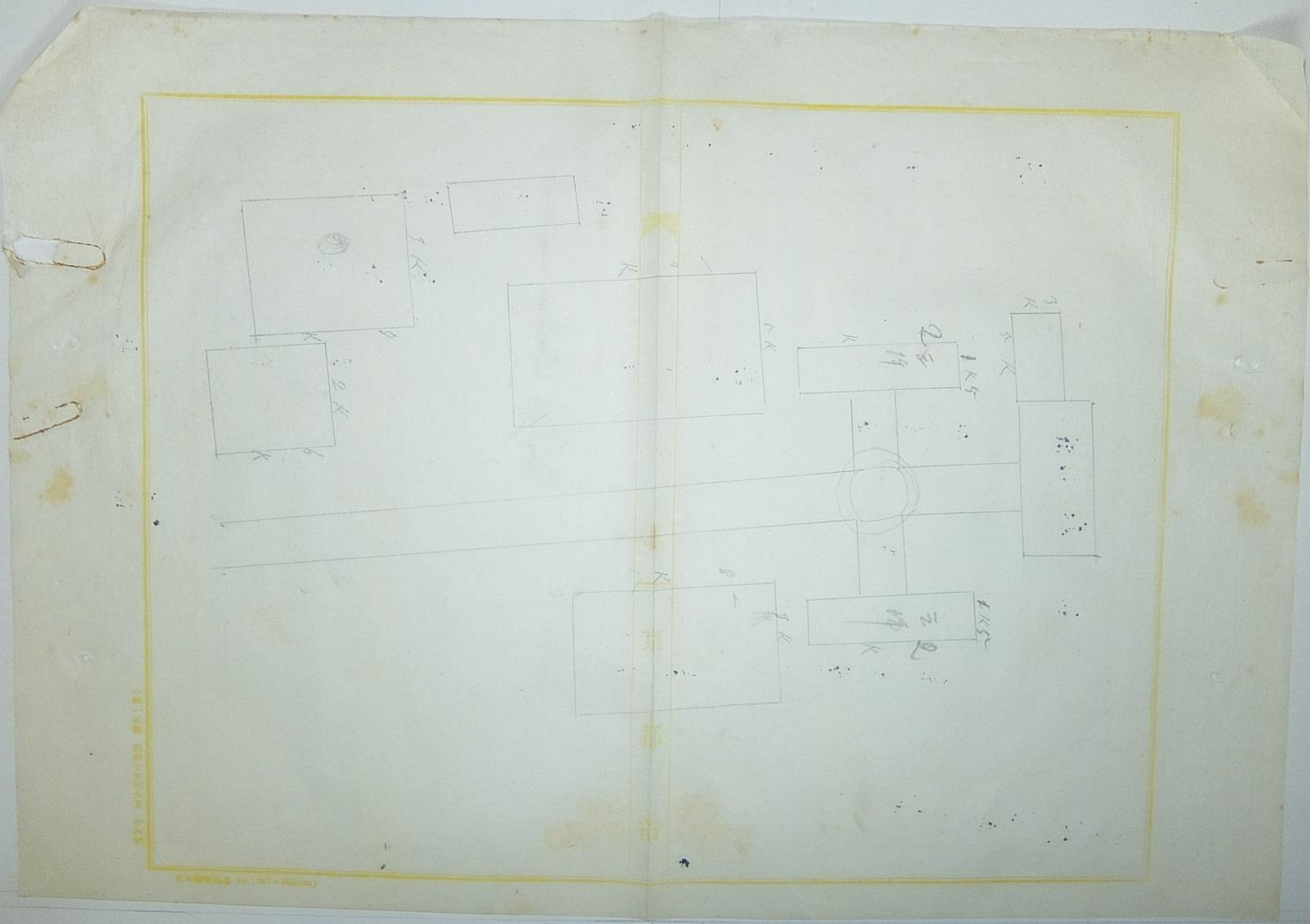
四着手並ニ完了ノ予定期　自昭和十六年四月七日　至仝　年四月末日　七日間

右風致地區規則第二条ニ依リ許可ヲ受ケ度別紙図面添付此段申請候也

風致地區規則

第二条　風致地區内ニ現在ノ変更ヲ要スベキ行爲ヲ爲サントスルトキハ別ニ定ムルモノヲ除ク外知事ノ許可ヲ受クベシ

4-4　庶務一件　　昭和16年



4-4　庶務一件　　昭和16年

一七

昭和　年　月　日決裁　昭和十六年二月七日発行　浄寫者　校合者

昭和十六年二月五日起案　起案者

會長
副會長

理事長

常任理事
理事

戒慎委員會第六回ノ件

年日ノ

委員長　委員各位

會長

標記ノ件別紙ノ通リ決定致シ度此段及通知候也

追テ本件ニ関シ来ル十七日午後一時岡崎第都高品陳列館三階ニ於テ委員会ヲ開催致シ度此段申添候也

稟議用紙　染織講社

委員長　和田覚
委員　田村轟
〃　大根貞治
〃　杉尾神社會司
〃　賀茂皆神社
〃　神尾清澄
〃　吉田神社
〃　二宮正勲
〃　北野神社
〃　社事神社
〃　社事務官　平静
〃　下池堂神社
〃　出雲路神社
〃　栗栖神社
〃　園崎神社
〃　山本久七
〃　出雲路敬豊
〃　鳥羽寛節
〃　宮屋定由
〃　平田光三郎

神職会幹事　本村暁麻

十三名

染織講社

4-4　庶務一件　　昭和16年

拝啓愈々清祥の段奉賀候
陳者慶祝之件申上置候本會役員異動に関しては別紙の通りに有之候
間乍御承知御披露
申迄も乍同蒼々敬具

昭和十六年二月廿日

京都府神職會

梁瀬講社
中岡利信殿

新任幹事氏名

官幣大社賀茂御祖神社宮司　神尾清澄
官幣中社吉田神社宮司　二宮正彰
官幣中社北野神社宮司　松平靜
鄉社　岡崎神社　社司　本田光三郎
他ノ幹事ハ從前通リ

參考

解任[redacted]　[redacted]
　　　

一八

昭和16年7月7日決裁　昭和16年7月7日発行
昭和十六年三月三日起案
會長
副會長
理事長
常任理事
理事
起案者
淨寫者
校合者

市公會堂來館及構内地一部無料
使用ニ付申請

年月日

染織講社會長

京都市長　殿

標ノ件四月十二日本講社定後染織傘販
行ニ付茶席用トシテ公會堂來館及構
内地一部例年通左記期日無料使
用ニ御許可相成度申請候

記

一　來館一階全部（会場使用）
一　構内地　本館玄関前
一　使用期日　四月七日ヨリ十三日迄

染織講社

一九

昭和拾六年三月廿日決裁　昭和　年　月　日發行　淨寫者　校合者

昭和十六年三月一日起案　起案者

會長　副會長

理事長

常任理事　理事

染織講習會ノ件

染織講習會ノ件ニ付テハ別紙案内ノ通リ開催致度ニ付テハ御參考ノ爲メ被成下度此段御案内申上ます

敬具

年　月　日

染織講習會長
京都市長　名

追而各市町村ニ於テハ御參考ノ爲メ本状謄寫ノ上市内染織業者ニ御通知相成度

案内状発送先は例年ノ通リ

1500

票議用紙　染織講社

發西工第一一九三號
昭和十六年三月四日

染織講社御中

西陣織物工業組合

染織講社個人講社員申込書送附ノ件

拝啓時下益々御清栄奉賀候
陳者貴講社個人講社員申込書左記ノ通リ御送付申上候間御査収相成度候也

記

一市川藤三郎外一四九名

京都市今出川通大宮東入
西陣織物工業組合
電話西陣三二〇・三二一・三二二・三二三番

二一

昭和十六年三月三日決裁　昭和十六年三月三日發行　淨寫者　校合者

昭和十六年三月　日起案　起案者

會長
副會長

理事長

常任理事

理事

幹事

伯人講社ヨリ勧誘状別紙ノ通リ
年月日
染織講社
殿

標題ノ件別紙ノ通リ染織講社ヨリ勧誘ノ申込アリ
ハ有之候ヘ共講習ノ準備、部屋ノ都合モアリ
ト付テハ当分ノ内ハ之ヲ謝絶シ度尚又勧誘ノ
内報ノ如ク之ヲ謝絶シ度此段申進ス

追而申込ノ許可ヲ得タル暁ハ別紙ノ通リ
染織講社ヨリ通知ノ筈ニ付承知ス

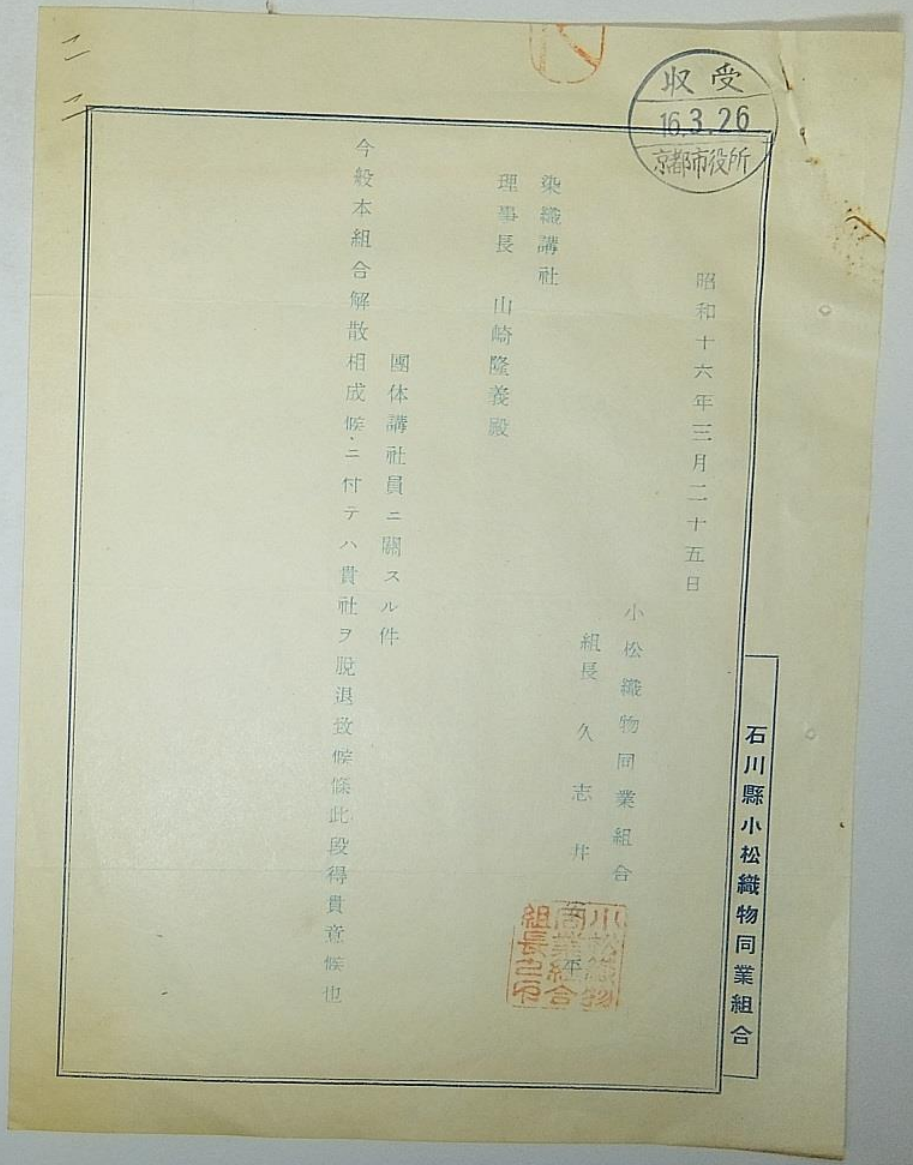
染織講社

染織部
染色地部
西陣織物部
錦織物部
捺染部

染織物ノ業組合
染織物ノ業組合
染織物ノ業組合

4-4　庶務一件　　昭和16年





4-4 庶務一件 昭和16年

二三

昭和　年　月　日決裁　昭和十六年三月廿三日起案　昭和十六年三月廿四日發行　淨寫者　校合者

會長　副會長　理事長　常任理事　理事　幹事　起案者

團体講社員会担当件

年　日

染織講社理事長
京都市助役　名

拾四也ノ通リ多数ナカラ至急御送金ヲ
願度此段御依頼申上候

本年度昭和十六年度講社

染織用紙　染織講社

御多忙ノ際誠ニ恐縮ノ儀ニ候ヘ共講社員会担当ノ件

京都織物卸商業組合　組長　波辺都二
京都染物同業組合　組長　北村平三郎
京都呉服太物同業組合　組長　吉竹孝次郎
京都綾工業組合　理事長　杉尾喜七
百貨店同業組合京都支部　幸喜馬屋呉服店
はとや百貨店　専務取締役　吹
秩父織物工業組合　理事長

電送先

4-4　庶務一件　昭和16年

小松織物同業組合 組長

福井県織物同業組合組合

事務所事務員兼商業同組合設置

代表 山田敬治

昭和十六年二月四日決裁　昭和16年2月4日發行　淨寫者　校合者

昭和十六年一月三日起案　起案者

會長
副會長

理事長　常任理事
理事

幹事

團体講社賞与担金ニ関スル件

昭和十六年一月日

染織講社会長
京都市長

謹啓益々清福ヲ慶賀奉候陳者本講社ニ於テハ毎々多大ノ御援助ヲ賜リ感謝ニ堪ヘス講社モ漸ク隆盛ヲ致シ候ニ付テハ基金ヲ設ケ社礎鞏固ニ致度ト存シ候ニ付テハ各位ノ平素深厚ナル御支援ノ賜ヲ以テ左ノ通リ賞与ノ途ヲ講シ本年度ノ染織祭ハ来ル四月十日ヲ最初ノ日ト定メ其ノ当日ヨリ社代表ヲシテ神前ニ誠心ヲ申述シ且代ヲシテ神前ヲ祓ヒ手ヲ拍チ朝ヤスライ祝詞ヲ奉納スルヲシテ因ミニ之ガ準備申ヲ為サシメハ如何ヤ尚本講社ニ於テ毎年ヲ以テ団体講社ヲ組織シ本年度ヨリ担金ヲ出ス事ニ決シ尚追テ募集ノ手続ヲ為ス事ニ決シ候間此段御通知申上候也

染織講社

4-4　庶務一件　　昭和16年

拾弐月廿九日発送
染織講社

大管 春山川上ル 京都之糸問屋並ニ高岸日施設置
仲表店 山田秋傳
京都市東高瀬川畔上ル 杉上義郎
烏丸錦小路上ル
京都織物輸送倉庫㈱ 浅田嘉平
祇下仲御前山本町
毋伝編物工業組合理事長 五加登精一
石川縣小松町字町
小松織物同業組合組長
福井縣織物同業組合
福井縣佐佳枝上町八十
埼玉縣秩父郡秩父町大字
秩父織物工業組合理事長

梁織講社

京都駅前
はとや百貨店事務取扱所
堂町二条上ル
株式会社三越京都支店 小笠原満丹
百貨店高業組合京都支部

拝啓

春暖之候愈々御清祥之段奉大賀候　私事京都市役所在職中ハ公私共格別ノ御懇情ヲ賜ワリ寔ニ難有奉深謝候

然ル處今般市役所ヲ去ルコト、相成申候ニ就而ハ市ニ奉職セシ故ヲ以テ貴社役員タリシ私ニ對シ記念品トシテ私事年來所望致シ居候刺繍ノ屏風御恵與ニ預リ感謝ノ至リニ不堪候

何ノ役ニモタヽザリシ私ノコト當然御辭退申上グベキノ處御厚志ニ甘ヘ謹ンデ拝受永ク家寶トシテ保存仕候

右乍略儀以書中御禮申述度如斯御座候　敬具

昭和十六年三月　日

中村三之助

辯護士　中村三之助

染職講社

御中

事務所　京都市上京區河原町廣小路下ル西入
電話上三一〇番

4-4　庶務一件　　昭和16年

證

一、利久形貳枚折屏風　壹

但シ鶏之圖刺繍

右記念品トシテ御惠與ニ預リ正ニ拜受仕候也

昭和十六年三月　日

中村三之助

染職講社

御中

辯護士　中村三之助

事務所　京都市上京區梅屋町廣小路下ル西入
電話上三一〇番

十二日準備等奉納すらい花踊当役者（元名町）

踊子　12　地方　7

榮康　市涂　武内　道子　笛　吉福　初の若
別所　市初　西村　祥子　〃　西村　初勇
森本　市三三　佐伴　房子　小鼓　米田　市芳
中原　豆六　〃　池田家　吉枝
〃　雛九　摺金　織田　美代君
石鶴　豆鶴　〃　豊美　豆代
桔梗家　雛勇　大太鼓　木村　美代照
大照　初の光
中井　豆佳

元名町踊奉納記念写真

4-4　庶務一件　昭和16年

平安名やすらい花踊唱歌

都（ミヤコ）の北の紫野（ムラサキノ）　今宮まうでの花傘（ハナガタ）

エイエ　やすらい花や

富貴（トミグサ）の花やとみをせば　みくらの山にあまるまで

エイエ　やすらい花や

命（イノチ）をこはば　ちよに千代（ヨロヅヨ）萬代までも長らへむ

エイエ　やすらい花や

西陣織（オリ）は山をなし　友禅（イウセンゾメ）染は海をこゆ

エイエ　やすらい花や

染織講社員團體申込書

取扱者
所屬組合

貴講社ノ趣旨ヲ翼賛シ講社員トシテ申込候也

（團體講社員年額五拾圓　月　日納入）

昭和十六年　二月二十日

住所　京都市上京區大宮通今出川上ル

氏名　京都生絲問屋業組合　理事長　高橋謹吾　印

電話西陣一三八番

染織講社會長
京都市長　市村慶三殿

代表者　山田敬

二ノ一

供饌申込者表

鏡餅ノ部

申込者	鏡ノ大イサ	依託 直接	依託	三方 新	三方 舊	住所	電話
京都織物株式會社	五升		〃		〃	左京區吉田下阿達町	上二二一
日本百貨店組合京都支部	五升		〃		〃	上京區今出川通淨福寺西入	西三一五四
大丸高島屋	六升		〃		〃	京都府中郡峰山町	峰山七〇
丸物藤井大丸	五升		〃		〃	烏丸通五條南入	下四四四〇
西陣着尺織物工業組合	五升		〃		〃	烏丸通佛光寺北入	下八八三
丹後縮緬工業組合	五升		〃		〃	烏丸通夷川北入	上二五
日本紡織通信社京都支局	五升		〃		〃	上京區今出川大宮東入	西三三〇
日本織物新聞社京都局	五升		〃		〃		
日出新聞社	五升		〃		〃		
西陣織物工業組合	五升		〃		〃		
京都染物同業組合	五升		〃		〃	中京區四條西洞院角	
京都關東織物卸商業組合	五升		〃		〃	中京區烏丸通蛸藥師下ル	
日本染織物見本市協會 總裁 清浦奎吾	五升		〃		〃	〃	
日本染織物見本市協會	五升		〃		〃	〃	
三越京都支店	三升		〃		〃	中京區室町通二條上ル	上一二〇五
祇園甲部遊廓							
祇園乙部遊廓							
先斗町遊廓							
宮川町遊廓	一八升		〃		〃		
上七軒遊廓							
北新地東部遊廓							

染織講社

（水上印行）

島原遊廓					
中書島遊廓					
いろは餅本店					
京都織物卸問屋同業組合（染呉服部）	三升	〃	〃	下京區烏丸通四條角	本六一四〇
丸紅 安藤吉田忠市	六升	〃	〃		丸紅 下八七〇一
ゼニヤ商會	三升	〃	〃	東山區三條通大橋東入	上七八四
日本工業新聞社	三升	〃	〃	中京區富小路三條上ル	本五六〇二
京都友禪工業組合	三升	〃	〃		

染織講社

供饌申込者表

酒及其ノ他ノ部

申込者	種別	依託直接	數量	住所	電話
大日本麥酒株式會社大阪支店京都出張所	特製アサヒビール	直接	二打入二箱	河原町通四條南入壽ビル三階	下四〇一七
山田長左衛門酒店	嶋台一升壜	〃	五本	東洞院通御池南	本五四三〇 五四三一
堀野久造商店京都支店	キンシ正宗一升壜	〃	五本	堺町三條上	本四一九 四二〇
大倉恒吉商店京都支店	月桂冠一升壜	〃	五本	中京區六角東洞院東入	本一二七八 一二八
石崎株式會社京都支店	澤ノ鶴一升壜	〃	五本	下京區烏丸四條南入	下七一〇

（次頁に續く）

京都市指令收土地第 一〇 號

染織講社會長 加賀谷朝藏

昭和十六年一月六日附願岡崎公園運動場一時使用ノ件左ノ條件ヲ付シ之ヲ許可ス

昭和十六年二月十九日

京都市長 加賀谷朝藏

條件

一、使用期日ハ昭和十六年四月廿日ヨリ十日トス

二、使用前公園看守ニ其旨届出テ使用後ハ清潔ニ掃除シ公園看守ニ引繼クヘシ

三、使用料 免除 トス

四、京都市公園使用條例中使用者ニ關スル規定ハ本條件トシテ之ヲ適用ス

五、其他法令ノ規定ニ依リ知事ノ許可ヲ受クヘシ

4-4 庶務一件 昭和16年

昭和　年　月　日決裁　昭和16年4月14日發行　浄寫者　校合者

昭和十六年四月十四日起案　起案者

會長　副會長　理事長　常任理事　理事　幹事

講社資募集要項ニ對スル稟申ノ件

昭和十六年四月十四日

理事長

講社資募集要項（三十四名）

右別紙伺通リ御許可相成度此段稟申候也

追テ本件ニ關シテハ目下ノ處不拘

大ノ御高配ヲ煩ハシ度尚ホ詳細ノ儀ハ口頭ヲ以テ申上ケ候

資ノ御寄附ヲ以テ會館ノ建設ヲ速ニ實現セラレンコトヲ切望ス

發第　三七〇　號

昭和十六年　四月　廿一日

京都商工會議所

染織講社御中

御申出ノ貴講社本年度事業ニ對シ補助金トシテ五百圓交付ノコトニ決定致候間此段御通知申上候

敬具

追テ右補助金ハ本月末當所會計ニテ御受取相成度尚明年度ヨリハ時代服裝行列ヲ行ハルヽ年度ニ限リ五百圓、然ラザル年度ニハ參百圓補助ノコトニ致度候ニ付御諒承被成下度申添候

日本標準規格B5(182×257mm)

京都商工會議所

三。

昭和　年　月　日決裁　昭和16年四月廿八日發行　淨寫者　校合者

昭和十六年四月廿八日起案　起案者

會長
副會長

理事長

常任理事

理事

幹事

理事會後ノ件

昭和十六年四月廿八日

理事長

理事殿

本會先般染織業者ノ際ハ多忙中遠路ヲ御参會ノ際ハ

稟議用紙　**染織講社**

重ネテ好都合ヲ終了致シ候事ト深謝ヲ祝シ候ハ左記ノ件ヲ付理事會ニ提出致シ度候間御繰合ノ上速ニ本日六日午後四時半迄ニ御参會相成度尚ホ當日ハ御家族ヲ御同伴ノ上御参會相成度此段御通知申上候敬具

記

一、講社員各業状況報告

二、其他重要事項報告

理事長　山崎助次
理事（兼）猪飼庵葉部七
理事　山川二次郎
〃　岡埼留三郎
〃　岩村史郎
〃　長谷川市三
〃　伊美六二郎
〃　伸村隆志郎
〃　志村博
〃　美森庵彦郎

〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃

〃　十名

梁織講社
松永六人

謝社員募集賦課

内訳

個人謝社員	一、二八七口（一口五圓）	六、四三五圓
團體謝社員	一八團體（一口五〇圓）	九〇〇圓
日本染織物見本市協會	特別分擔金	二〇〇圓
合計	金七千五百參拾五圓	

4-4 庶務一件 昭和16年

式典費、祭事費支出申聞報告

式典費

豫算額　一、五〇〇、〇〇〇圓
支出額　一、四二五、六六〇

內譯

四二、四〇〇	式典委員會費用	
一〇、〇〇〇	郵便切手、端書	
一七〇、〇〇〇	京都府神職會へ謝禮	
一、二〇〇、〇〇〇	祭場設備費	
三、二二〇	雜費	

祭事費

豫算額　三、〇〇〇、〇〇〇
支出額　二、七七八、九三

內譯

三、〇〇〇圓	講社員分擔金領收書印刷
四七、〇〇〇	郵便切手
三三、八〇〇	案內狀、封筒、挨拶狀印刷及用紙
三、六〇〇	案內狀追加印刷及封筒
四、八〇〇	諸雜品費
一八〇、〇〇〇	衣裳保管料
一五〇、〇〇〇	やすらい踊ノ謝禮
三五八、〇〇〇	祭ノ指導員及關係者、傷人慰勞及謝禮
四、五九	役員、係員徽章代
七、五〇	謄寫用紙
一八、〇〇〇	配膳雇入料
一、六九〇、〇〇〇	やすらい踊繪皿代　一、三〇〇組
三、〇〇〇	郵便切手
三八、四〇〇	供饌其他引換券、やすらい踊唱歌、式次第書印刷
四八、〇〇〇	係員、傷人辨當代
一六九、〇〇〇	供饌菓子代　一、三〇〇組

4-4　庶務一件　　昭和16年

公會堂貸室用菓子　三、〇〇
公會堂　やすらい廻休憩所設備　一〇、二〇
新炭、茶、其他雜費　八、〇四

4-4　庶務一件　　昭和16年

昭和十六年度個人醵社員

組合名	十六年割當數	十六年實績	増△減
京都織物卸問屋同業組合			
染呉服部	三八五	五二六	一四一
〃			
西陣織物部	二〇〇	三二一	一二一
京都生絹縮緬卸商業組合			
京都人絹白生地卸商業組合	五〇	三二	△一八
京都繊物卸問屋同業組合			
綿繊物部	四〇	五九	一九
〃			
半幅部	三〇	三〇	
關東繊物卸商業組合	五〇	五九	九
西陣繊物工業組合	一三〇	一五一	二一
西陣着尺繊物工業組合	五〇	五〇	
京都洋傘ショール卸商業組合			
京都洋反物商組合	三三	三〇	△三
京都染物同業組合	三〇	二五	△五
諸社直接勸誘	二	四	二
計	一、〇〇〇	一、二八七	二八七

4-4 庶務一件 昭和16年

個人講社員分擔金收入表

所屬組合名	口數	收入金額	手數料	實收入額	
京都織物卸問屋同業組合	五二六口	二、六三〇	〇〇	二、六三〇	〇〇
呉服部					
〃 西陣織物部	三二一	一、六〇五	〇〇	一、四四四	五〇
京都生絹綿織卸商業組合					
京都人絹白生地卸商業組合	三二	一六〇	〇〇	一四四	〇〇
京都綿織物卸商業組合	五九	二九五	〇〇	二六五	五〇
京都牛蒡服装品卸商業組合	三〇	一五〇	〇〇	一三五	〇〇
關東織物卸商業組合	五九	二九五	〇〇	二六五	五〇
西陣織物工業組合	一五一	七五五	〇〇	六七九	五〇
西陣着尺織物工業組合	五〇	二五〇	〇〇	二二五	〇〇
京都洋傘肩掛卸商業組合	二〇	一〇〇	〇〇	九〇	〇〇
京都洋反物商組合	一〇	五〇	〇〇	四五	〇〇
京都衆物同業組合	二五	一二五	〇〇	一一二	五〇
講社直接勧誘	四	二〇	〇〇	一一二	五〇
計	一、二八七	六、四三五	〇〇	五、七九三	五〇

4-4 庶務一件 昭和16年

昭和十六年度函體講社員

	十六年度	十五年度	前年度比較 増△減
西陣織物工業組合		西陣織物工業組合	
西陣着尺織物工業組合		西陣着尺織物工業組合	
京都織物卸問屋同業組合		京都織物卸問屋同業組合	
京都染物同業組合		京都染物同業組合	
京都呉服悉皆同業組合		京都呉服悉皆同業組合	
日本染織物見本市協會		日本染織物見本市協會	
京都蠶糸商同業組合		京都蠶糸商同業組合	
京都織物輸出組合		京都織物輸出組合	
京都關東織物卸商業組合		京都關東織物卸商業組合	
秩父織物工業組合		秩父織物工業組合	
百貨店同業組合京都支部		百貨店同業組合京都支部	
福井縣織物同業組合		福井縣織物同業組合	
丹後縮緬工業組合		丹後縮緬工業組合	
はとや百貨店		はとや百貨店	
京都友禪工業組合		京都友禪工業組合	
京都絞工業組合		京都絞工業組合	
株式會社三越京都支店		株式會社三越京都支店	
京都染呉服卸問屋商業組合		京都綿織物染色工業組合	
		小松織物同業組合	
計	一八	計 一九	△一

染織物見本市協會　二〇〇圓

團體講社員分擔金收入表

團體名	收入額
西陣織物工業組合	五拾圓
西陣着尺織物工業組合	仝
京都織物卸問屋同業組合	仝
京都染物同業組合	仝
京都染織物見本市協會	仝
京都生糸問屋糸商共同施設組合	仝
京都織物輸出組合	仝
京都關東織物卸商業組合	仝
秩父織物工業組合	仝
百貨店商業組合京都部會	仝
福井縣織物同業組合	仝
丹後縮緬工業組合	仝
はとや百貨店	仝
京都友禪工業組合	仝
京都絞工業組合	仝
株式會社三越京都支店	仝
京都染呉服卸問屋商業組合	仝
京染呉服悉皆同業組合	仝
十八組	九百圓

京染第五八九號
昭和十六年二月十日

京都綿織物染色工業組合

染織講社
御中

脫會届出ノ件

拜啓　益々御清榮奉賀候

陳者二月四日附ヲ以テ本年度分會費御請求ニ接シ候得共都合ニ依リ脫會致度候ニ付何卒不悪御承引被下度此段得貴意候也

京都市右京區西大路高辻
京都綿織物染色工業組合

4-4　庶務一件　　昭和16年

京都市指令收産商第五六三號

染織講社會長
加賀谷朝藏

昭和十五年十二月十日附申請補助金下附ノ件聽届ケ左記條件ヲ附シ金參千圓ヲ交付ス

昭和十六年四月四日

京都市長 加賀谷朝藏

記

一、金參千圓也ハ昭和十六年度擧行ノ染織祭典竝ニ平安朝やすらい踊奉納經費ニ充當スベシ

二、其ノ社經費收支決算及事業報告書ハ昭和十七年一月末日限リ報告スベシ

三、前各項ニ違背シ又ハ事業費ヲ著シク減ジタルトキハ補助金ノ全部若ハ一部ヲ返還セシムルコトアルベシ

四、市長必要アリト認ムルトキハ京都市事務監査規程ヲ準用シテ事業ノ監査ヲ爲スコトアルベシ

京都市

三

三

昭和　年　月　日決裁　昭和　年　月　日發行　淨寫者　校合者

昭和十六年五月六日起案　起案者

會長　副會長

理事長

常任理事　理事

幹事

積立金

一金弐千円也

右事業ニ依ル衣裳補修費其他積立金トシテ株式会社三井銀行京都支店ニ定期預金可致候条御承知被下度

三四

昭和　年　月　日決裁　昭和十六年　七月　八日發行　淨寫者

昭和十六年　月　七　日起案　起案者

會長
副會長

理事長

常任理事
理事

幹事

校合者

記念品送付ノ件

昭和　年　日

染織講社

福井縣織物業組合（以上）

標記ノ件ニ付キ別紙ノ通リ

染織講社

染織用紙

拝啓　愈々清栄ノ段奉賀上候扨テ本講社ノ業ハ茲ニ十有餘年ノ星霜ヲ経テ今日ニ至リ候ヘ共其間ニハ幾多ノ困難ニ逢着シ候ヘ共其都度各位ノ御援助ニ依リ漸ク今日ノ盛業ヲ見ルニ至リ候ハ全ク各位ノ御蔭ニ外ナラス茲ニ深ク感謝ノ意ヲ表スル為メ粗品ヲ贈呈仕リ度候間御受納被下度此段御通知申上候　敬具

記

一　すゐ織座布団　箱入　壱個

4-4　庶務一件　昭和16年

昭和十六年六月四日決裁　昭和16年6月9日發行　浄寫者　校合者

昭和十六年六月三日起案

會長　副會長

理事長　代

常任理事　理事　幹事

起案者

許諾願ノ件

今般當社ニ於テ左記各本講社ヲ設置セントスルニ付テハ貴市ノ許可ヲ受ケタシ尚許可ノ上ハ別紙ノ通リ本講社規約ヲ設ケ其ノ趣旨ニ依リ誠意ヲ以テ講務ニ從事スベキヲ誓約シ此段願ヒ上ゲマス

稟議用紙 ― 染織講社

書面之通リ御許可相成度此段稟議候也

六月　日

染織講社會長

京都市長　殿

記

一、名稱　染織講社

四課ヲ詐欺ノ罪ニ陥レ
宅吾佐助
原次次男
大倉宅ヲ
小西新次郎
出雲路誠豊
芳賀秋三
新井助
以上拷問
西原桂助
山本次七
三田精村能
田橋民治
為藏郎

染織講社趣意書

染織ニ關スル技術ハ世界各國ヲ通シ其淵源極メテ古ク我國ニ於テモ原始時代ニ既ニ其ノ道ノ開ケタリシハ想像ニ難カラサル所ニシテ其後歴史文化ノ影響ト洗練陶冶トヲ經テ漸次發達ノ域ニ進ミ殊ニ近代科學ノ進歩ハ機械ノ應用ヲ促進シ以テ今日ノ隆盛ヲ見ルニ至レリ染織業ハ今ヤ我國産業ノ樞位ヲ占メ其消長ハ國家文國民經濟上極メテ重大ナル關係ヲ有スルニ至リタルハ多言ヲ要セサル所ナリ抑々斯業ノ淵源ハ遠ク神代ノ昔ニ發セルハ明カニシテ吾人ハ始メテ染織ノ道ヲ拓キ之ヲ後世萬民ニ傳ヘ給ヒシ染織諸祖神ノ神恩ノ宏大無邊ナルヲ思ハサルヲ得ス殊ニ本府ニ於ケル産業ハ染織及之レニ關聯セルモノ其ノ樞軸ヲ占メ直接及間接之ニ依リテ生活スル者他地方ニ比シ實ニ多大ニシテ前記諸神ノ神恩ニ浴スルノ程度亦一層深シト謂ハサルヘカラス

然ルニ由來我京都ニハ四季ヲ通シ各神社ノ盛儀ナル祭事行ハレツヽアリト雖モ未タ府民ニ最モ關係深キ染織祖神ニ感謝ノ意ヲ捧クヘキ祭祀ニ乏シカリシハ誠ニ識者ノ深ク遺憾トセシ所ナリ依ツテ茲ニ有志相謀リ左記規約ニ依リ染織講社ノ設立ヲ發起シ毎年陽春ノ季ヲトシ染織祭ヲ行ヒ以テ我國染織諸祖神ノ御神德ヲ宣揚シ共ノ洪恩ノ萬分ノ一ニ報ユル所アラムトス

冀クハ大方ノ諸賢奮ツテ本講社ノ趣意ニ翼贊加盟セラレ以テ其ノ所期ノ目的ヲ達成セシムル爲協賛アランコトヲ

祭神

天棚機姫神　天羽槌雄神

天日鷲神　長白羽神

津咋見神　保食神

栲幡千々姫命　呉織女（合祭）

漢織女（合祭）

染織講社規約

（昭和六年二月十六日設立）
（昭和十五年十二月六日改正）

第一條　本講社ハ染織講社ト稱ス

第二條　本講社ハ染織祖神ノ神德ヲ宣揚シ敬神尊祖ノ美風ヲ涵養スルヲ以テ目的トス

第三條　本講社ハ前條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フ

一、染織祭ノ擧行

二、前項ト關聯スル施設

第四條　本講社ハ本部ヲ平安神宮内ニ置ク

第五條　本講社ハ第二條ノ目的ヲ翼贊スル者ヲ以テ之ヲ組織ス

第六條　本講社員ヲ左ノ三部ニ分ツ

第一部　染織業者ノ團體

第二部　染織ト關係アル團體

第三部　特ニ本講社ノ事業ヲ翼贊スル者及其ノ團體

第七條　本講社ニ加盟セントスル者ハ其ノ氏名（團體ニアリテハ代表者ノ氏名）ヲ記載シタル書面ニ依リ其ノ旨本會ニ申込ムヘシ

第八條　本講社ニ左ノ役員ヲ置ク

會長　一名
副會長　一名
評議員　若干名
理事長　一名
理事　九名

會長ハ理事中ヨリ常任理事一名ヲ定ム

第九條　會長ハ京都市長、副會長ハ京都商工會議所會頭トス

評議員ハ會長之ヲ委囑ス

理事長ハ京都市助役、理事ハ西陣織物工業組合代表者一名、日本染織物見本市協會代表者一名、京都府一名、京都市二名、京都商工會議所一名及染織ト關係アル業者中ヨリ三名ヲ以テ之ニ充テ會長委囑ス

第十條　本講社ニ名譽會長及顧問ヲ置クコトヲ得

名譽會長ハ京都府知事ヲ推戴シ顧問ハ評議員會ノ承認ヲ得テ會長之ヲ囑託ス

第十一條　會長ハ本講社ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

評議員ハ講社ノ機務ニ參與ス、

理事長ハ講務ヲ掌理シ會長、副會長共ニ事故アルトキハ之ヲ代理ス

理事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ講務ヲ處理ス

第十二條　役員ハ凡テ名譽職トス

第十三條　本講社ノ會議ハ評議員會及理事會ノ二種トス

評議員會ハ毎年十二月會長之ヲ招集ス、但シ臨時必要アルトキハ其ノ都度之ヲ招集ス

理事會ハ會長及理事長ニ於テ必要ト認メタルトキ之ヲ招集ス

第十四條　評議員會及理事會ノ議決事項左ノ如シ

評議員會

一、規約ノ變更

二、豫算ノ議決及決算ノ承認

三、講務ニ關スル報告ノ承認

理事會

一、事業ノ執行ニ關スル事項

二、評議員會ニ附議スヘキ事項

三、會長及理事長ニ於テ必要ト認メタル事項

第十五條　本講社ノ經費ハ各講社員ノ分擔醵出シタルモノ及寄附金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條　本講社ノ會計年度ハ曆年ニ依ル

第十七條　本規約ノ施行ニ必要ナル細則ハ理事會ノ議決ヲ經テ會長之ヲ定ム

染織講社規約施行細則

（昭和六年三月制定
昭和十三年一月改正）

第一條　本講社ノ事務所ハ當分ノ間京都市役所産業部商工課内ニ置ク

第二條　本講社ニ於テ行フ染織祭ノ日時及式場ハ理事會ノ議決ヲ經テ會長之ヲ定ム

第三條　本會ニ主事一名事務員若干名ヲ置キ會長之ヲ任命又ハ囑託ス

第四條　主事ハ上司ノ命ヲ承ケ講社ノ事務ヲ處理ス

事務員ハ上司ノ命ヲ承ケ庶務、會計事務ニ從事ス

第五條　會長ハ祭典ニ關シ事務ヲ處理スル爲メ毎年左ノ委員ヲ設ケ之ヲ分擔セシムルモノトス

一、式典委員

二、祭典委員

各委員ニ委員長ヲ置ク

第六條　委員長ハ會長、理事長ノ指揮ヲ承ケ委員ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ所屬ノ事務ヲ處理ス

三六

昭和十六年六月四日決裁　昭和16年6月4日
昭和十六年六月三日起案

會長
副會長
理事長
常任理事
理事
幹事
起案者
淨寫者
校合者

評議員會ノ件

標記ノ件別紙寫ノ通リ染織講社ヨリ申込有之候ニ付テハ本講社ハ昭和六年二月ノ決議ノ趣意ニ基キ染織ニ關シ毎年陽春ノ候ヲ卜シ染織祭ヲ擧行シ其ノ際ニ於テ評議員ノ總會ヲ開催シ諸般ノ事項ヲ協議スルノ慣例ニ有之候條御異存ナクバ其ノ通リ御承認相成度此段及御伺候也

染織講社

染織講社ヨリ申込ノ件

本講社ハ昭和六年二月ノ決議ノ趣意ニ基キ染織ニ關シ毎年陽春ノ候ヲ卜シ染織祭ヲ擧行シ其ノ際ニ於テ評議員ノ總會ヲ開催シ諸般ノ事項ヲ協議スルノ慣例ニ有之候條御異存ナクバ其ノ通リ御承認相成度此段及御伺候也

六月　日

染織講社會長
京都市長　名

免

新任評議員ノ件左ノ
伴ノ通
井上靜藏
中村長吉郎
大橋理祐
西澤喜洋芽
大島武夫
以上

染織講社趣意書
同　規約
同　施行細則

4-4　庶務一件　　昭和16年

染織講社趣意書

染織ニ關スル技術ハ世界各國ヲ通シ其濫觴極メテ古ク我國ニ於テモ原始時代ニ既ニ其ノ道ノ開ケタリシハ想像ニ難カラサル所ニシテ其後歴史文化ノ影響ト洗練陶冶トヲ經テ漸次發達ノ域ニ進ミ殊ニ近代科學ノ進歩ハ機械ノ應用ヲ促進シ以テ今日ノ隆盛ヲ見ルニ至レリ染織業ハ今ヤ我國産業ノ樞位ヲ占メ其消長ハ國家又國民經濟上極メテ重大ナル關係ヲ有スルニ至リタルハ多言ヲ要セサル所ナリ抑々斯業ノ淵源ハ遠ク神代ノ昔ニ發セルハ明カニシテ吾人ハ始メテ染織ノ道ヲ拓キ之ヲ後世萬民ニ傳ヘ給ヒシ染織諸祖神ノ神恩ノ宏大無邊ナルヲ思ハサルヲ得ス殊ニ本府ニ於ケル産業ハ染織及之レニ關聯セルモノ其ノ樞軸ヲ占メ直接及間接之ニ依リテ生活スル者他地方ニ比シ實ニ多大ニシテ前記諸神ノ神恩ニ浴スルノ程度亦一層深シト謂ハサルヘカラス

然ルニ由來我京都ニハ四季ヲ通シ各神社ノ盛儀ナル祭事行ハレツヽアリト雖モ未タ府民ニ最モ關係深キ染織祖神ニ感謝ノ意ヲ捧クヘキ祭祀ニ乏シカリシハ誠ニ識者ノ深ク遺憾トセシ所ナリ依ツテ茲ニ有志相諮リ左記規約ニ依リ染織講社ノ設立ヲ發起シ毎年陽春ノ季ヲトシ染織祭ヲ行ヒ以テ我國染織諸祖神ノ御神徳ヲ宣揚シ其ノ洪恩ノ萬分ノ一ニ報ユル所アラムトス

冀クハ大方ノ諸賢喬ツテ本講社ノ趣意ニ翼贊加盟セラレ以テ其ノ所期ノ目的ヲ達成セシムル爲協賛アランコトヲ

祭神

天棚機姫神　天羽槌雄神

天日鷲神　長白羽神

津昨見神　保食神

栲幡千々姫命　呉織女（合祭）

漢織女（合祭）

染織講社規約

（昭和六年二月十六日設立）
（昭和十五年十二月六日改正）

第一條　本講社ハ染織講社ト稱ス

第二條　本講社ハ染織祖神ノ神徳ヲ宣揚シ敬神尊祖ノ美風ヲ涵養スルヲ以テ目的トス

第三條　本講社ハ前條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フ

一、染織祭ノ擧行

二、前項ト關聯スル施設

第四條　本講社ハ本部ヲ平安神宮内ニ置ク

第五條　本講社ハ第二條ノ目的ヲ翼贊スル者ヲ以テ之ヲ組織ス

第六條　本講社員ヲ左ノ三部ニ分ツ

第一部　染織業者ノ團體

第二部　染織ト關係アル團體

第三部　特ニ本講社ノ事業ヲ翼贊スル者及其ノ團體

第七條　本講社ニ加盟セントスル者ハ其ノ氏名（團體ニアリテハ代表者ノ氏名）ヲ記載シタル書面ニ依リ其ノ旨本會ニ申込ムヘシ

第八條　本講社ニ左ノ役員ヲ置ク

會長　一名
副會長　一名
評議員　若干名
理事長　一名
理事　九名

會長ハ理事中ヨリ常任理事一名ヲ定ム

第九條　會長ハ京都市長、副會長ハ京都商工會議所會頭トス

評議員ハ會長之ヲ委嘱ス

理事長ハ京都市助役、理事ハ西陣織物工業組合代表者一名、日本染織物見本市協會代表者一名、京都府一名、京都市二名、京都商工會議所一名及染織ト關係アル業者中ヨリ三名ヲ以テ之ニ充テ會長委嘱ス

第十條　本講社ニ名譽會長及顧問ヲ置クコトヲ得

名譽會長ハ京都府知事ヲ推戴シ顧問ハ評議員會ノ承認ヲ得テ會長之ヲ嘱託ス

第十一條　會長ハ本講社ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

評議員ハ講社ノ機務ニ參與ス

理事長ハ講務ヲ掌理シ會長、副會長共ニ事故アルトキハ之ヲ代理ス

理事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ講務ヲ處理ス

第十二條　役員ハ凡テ名譽職トス

第十三條　本講社ノ會議ハ評議員會及理事會ノ二種トス

評議員會ハ毎年十二月會長之ヲ招集ス、但シ臨時必要アルトキハ其ノ都度之ヲ招集ス

理事會ハ會長及理事長ニ於テ必要ト認メタルトキ之ヲ招集ス

第十四條　評議員會及理事會ノ議決事項左ノ如シ

評議員會

一、規約ノ變更

二、豫算ノ議決及決算ノ承認

三、講務ニ關スル報告ノ承認

理事會

一、事業ノ執行ニ關スル事項

二、評議員會ニ附議スベキ事項

三、會長及理事長ニ於テ必要ト認メタル事項

第十五條　本講社ノ經費ハ各講社員ノ分擔醵出シタルモノ及寄附金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條　本講社ノ會計年度ハ曆年ニ依ル

第十七條　本規約ノ施行ニ必要ナル細則ハ理事會ノ議決ヲ經テ會長之ヲ定ム

染織講社規約施行細則

（昭和六年二月制定）
（昭和十三年一月改正）

第一條　本講社ノ事務所ハ當分ノ間京都市役所産業部商工課内ニ置ク

第二條　本講社ニ於テ行フ染織祭ノ日時及式場ハ理事會ノ議決ヲ經テ會長之ヲ定ム

第三條　本會ニ主事一名事務員若干名ヲ置キ會長之ヲ任命又ハ嘱託ス

第四條　主事ハ上司ノ命ヲ承ケ講社ノ事務ヲ處理ス

事務員ハ上司ノ命ヲ承ケ庶務、會計事務ニ從事ス

第五條　會長ハ祭典ニ關シ事務ヲ處理スル爲メ毎年左ノ委員ヲ設ケ之ヲ分擔セシムルモノトス

一、式典委員

二、祭典委員

各委員ニ委員長ヲ置ク

第六條　委員長ハ會長、理事長ノ指揮ヲ承ケ委員ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ所屬ノ事務ヲ處理ス

三七

昭和　年　月　日決裁　昭和十六年六月八日發行　淨寫者　校合者

昭和十六年六月七日起案　起案者

會長
副會長

理事長

常任理事

理事

幹事

記念品ノ配ノ件

年　日

染織講社

団体講社員宛

御會員ニ於テ漸ク業ヲ開キ隆昌講社ヲ築キ業ヲ樂シテハ益ト大ノ御援助

稟議用紙　**染織講社**

ヲ辱フシ厚謝ニ堪エス社ニハ本年四月染織業ヲ興シ爾来今日ノ隆昌講社ヲ見ル迄ニ仕上ケ茲ニ記念品ヲ贈呈シ度ト存ジ左記ノ通リ御届ケ申上ケ候ニ付テハ各位ニ於カセラレマシテハ何卒御協力ヲ賜リ度ク特ニ可然御尽力ヲ願ヒ度ク候

追テ未タ御届ケナカラ表御届ケ方ヲ御使ヲ以テ高島陳列館迄御届ケ下サレ度ク候

敬具

記

一、やすらい踊絵巻　壱枚入　四個

昭和十六年度團體講社員

十六年度	十五年度	前年度比較
西陣織物工業組合	西陣織物工業組合	
西陣着尺織物工業組合	西陣着尺織物工業組合	
京都織物卸問屋同業組合	京都織物卸問屋同業組合	
京都染物同業組合	京都染物同業組合	
京都呉服悉皆同業組合	京都呉服悉皆同業組合	
日本染織物見本市協會	日本染織物見本市協會	
京都鹽糸商同業組合	京都鹽糸商同業組合	
京都織物輸出組合	京都織物輸出組合	
京都關東織物卸商業組合	京都關東織物卸商業組合	
○秩父織物工業組合	秩父織物工業組合	
百貨店同業組合京都支部	百貨店同業組合京都支部	
○福井縣織物同業組合	福井縣織物同業組合	
○丹後縮緬工業組合	丹後縮緬工業組合	
はとや百貨店	はとや百貨店	
京都友禪工業組合	京都友禪工業組合	
京都絞工業組合	京都絞工業組合	
株式會社 三越京都支店	株式會社 三越京都支店	
京都染呉服卸問屋商業組合	京都綿織物染色工業組合	一
	小松織物同業組合	一
計 一八	計 一九	△一

染織物見本市協會 一〇〇圓

三八

昭和　年　月　日決裁　昭和　年　月　日發行　淨寫者　校合者

昭和十六年四月二十日起案

會長
副會長

理事長 代

常任理事
理事

起案者

幹事

振替貯金脫退ノ件

年　日

染織講社會長

大坂振替貯金課気付
振替貯金脫退請求書

一口金壹圓也大阪七三〇八二番

一九八番

稟議用紙 ― 染織講社

住所 大阪市東成區中道通四丁目
氏名 染織講社會長 吉村慶三

右振替貯金脫退ニ付テハ何卒御承認相成度此段及請求候也

三九

昭和十五年度産業組合講社定期決算書並事業報告ノ件

昭和十五年度定期決算書並事業報告

昭和十五年度定期決算書並事業報告ノ件

昭和十五年四月九日附全都市指令産商第一六八号ノ指示ニ依リ本講社昭和十五年度定期決算書並事業概況別紙及報告ノ通

昭和十六年三月廿九日決裁　昭和十六年三月廿日發行

昭和十五年三月廿九日起案

會長　副會長　理事長　常任理事　理事　幹事　起案者　浄寫者　校合者

稟議用紙　染織講社

昭和十五年度事業報告

一 講社数

個人講社 一、二八七
団体講社 一九
特別団体 五

二、四日七日ノ両日十時岡崎公園ニ運動場ニ於テ参集執行セリ

三、十月廿三日ヨリ廿五日迄京都市ニ於テ皇紀二六〇〇年奉祝京都大展覧会ニ付本講社ハ之ニ協賛シ上ノ時代ヨリ江戸末期ニ至ル人形衣裳及其附属品ヲ陳列シ一般ニ観覧セシメタリ

三、講社ヨリ業務ニ対シ事業補助ヲ受ケタル向ニ報告ヲ贈呈セリ

以上

染織講社

日本標準規格 B4 (257×364mm)

4-4 庶務一件 昭和16年

四〇

昭和　年　月　日決裁　昭和十六年六月廿三日発行　浄寫者　校合者

昭和十六年六月廿三日起案　起案者

會長　副會長　理事長代　常任理事　理事　幹事

評議員會ニ關スル件

評議員會ニ關スル件

左記

美森實子殿

御多忙ノ折誠ニ恐縮ニ存ジマスガ本講社ノ資産ニ關シ重大ノ事項ヲ附議致シマス間是非共御出席ノ程偏ニ御願申上ゲマス

追テ當日ハ御差支ノ場合ハ委任状ヲ御送リ下サレバ幸甚ニ存ジマス

京都市中京區

傳儀講社

稟議用紙　染織講社

四一

昭和　年　月　日決裁　昭和十六年六月十三日起案　昭和十六年六月十三日發行　淨寫者　校合者

會長　副會長　理事長　代　常任理事　理事　幹事　起案者

記念品送付ノ件

年月日

染織講社

一、本會地方絹織物業調査旅行ニ際シ本年四月廿五日ノ染織祭記念品左記ノ通送付セラルル筈ニ付テハ受領書ノ御返送ヲ煩シ度

記

一、すゐとう　一組　箱入　壱個

稟議用紙　染織講社

四二

昭和十七年七月三一日決裁　昭和十七年七月廿一日起案　昭和十七年七月廿一日発行　浄寫者　校合者

会長　副會長　理事長　常任理事　理事　幹事　起案者

団体講社等ニ対スル換発ニ関スル件

別紙ノ通小松地方裁判所ヨリ別紙ノ通リ照会有之候ニ付テハ本件ニ関シ意見書ヲ添付シ至急回送相成度此段及照会候也

追テ本件ニ関スル意見書ハ来ル廿五日迄ニ御回送相成度

稟議用紙　染織講社

講社ニ対スル換発ニ関スル件ニ付テハ本講社ハ別紙ノ通リ小松地方裁判所ヨリ照会有之候

染織講社員團體申込書

取扱者
所屬組合

貴講社ノ趣旨ヲ翼賛シ講社員トシテ申込候也

昭和拾六年六月拾六日

（團體講社員年額五拾圓　月　日納入）

住所　石川縣小松市末町六八番地

氏名　小松内地向絹人絹織物工業組合

染織講社會長
京都市長　市村慶三殿

加賀谷朝風

送金票

小内織發第　號　　昭和16年6月19日

染織講社御中

小松内地向絹人絹織物工業組合

下記ノ通リ御送金（送金方法 ~~銀行振込~~ 銀行小切手）申上候條御査收ノ上折返シ領収書御送付相成度候也

勘定科目	金額	摘要
	50円00銭	團体講社員負擔金
以下余白		

昭和　年　月　日決裁　昭和16年6月16日発行　淨寫者　校合者

昭和十年六月十六日起案　起案者

會長　副會長　理事長　常任理事　理事　幹事

稟議用紙　染織講社

団体講社員依頼ノ件

今回ハ

染織講社會長

京都市長

石川縣小松町

小松地方織物業組合

理事　志村安平　宛

標題ノ件ニ関シ別紙ノ通リ申請アリタルニ付テハ貴社ニ於テ御調査ノ上適當ト認メラルルニ於テハ本申請ヲ御許可相成リ度此段稟議ス

追テ本件ニ関スル御決定ノ際ハ御通知相成リ度尚申請書ハ返戻ス

昭和十六年四月一日

小松織物同業組合
組長 久志井安平

染織講社
會長 加賀谷朝藏 殿

脫退届

本組合ハ今般解散致候ニ付脫退致候
右及御届候也

石川縣小松織物同業組合

4-4 庶務一件 昭和16年

四三

昭和　年　月　日決裁　昭和　年　月　日發行　淨寫者　校合者

昭和十六年六月　日起案　起案者

會長　代
副會長

理事長

常任理事
理事

幹事

染織講社

評議用紙

拝啓時候

御益御清穆奉慶賀候陳者毎々本講社ニ御芳志ヲ賜リ御援助ヲ賜リ居候儀ハ勿論ニ候ヘ共今回ハ特ニ多大ノ御援助ヲ賜リ辱ク厚ク御礼申上候ト共ニ今後ノ御援助ヲ懇請シ奉リ候ニ付テハ一昨日設ケ手帖御送呈ノ上当ノ委員ヲ以テ御礼旁々御挨拶ヲ為サシメ申上ヲ百具ノ辺ヨリ御援助賜リ候ヤ又ハ別便ヲ以テ御贈呈申上ヲ百具ノ辺ヨリ御援助賜リ候ヤ又ハ別便ヲ以テ御贈呈申上候ヤ御伺ノ上御指図ヲ仰ギ度候ニ付テハ不悪御了承ノ上御指図御教示ヲ仰ギ度候

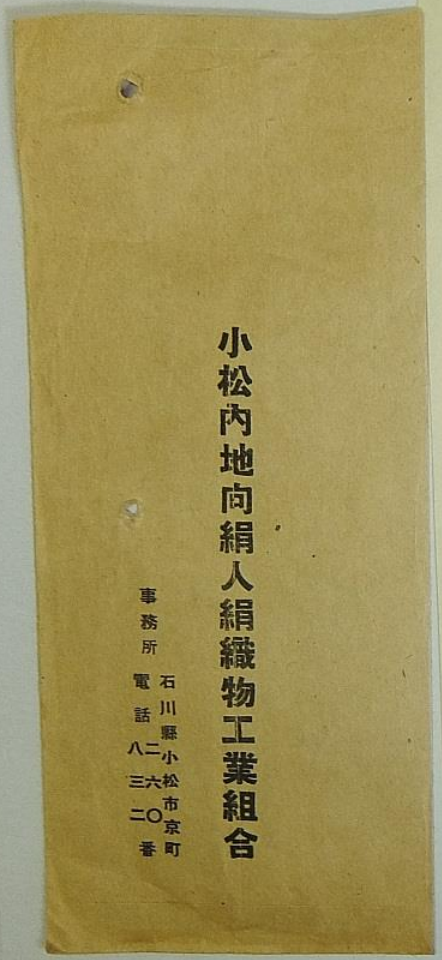
敬具

六月　日

染織講社
理事長　北山崎隆義

御中

追テ、委員ハ委員ヘ別紙御送呈ノ上



昭和十六年六月二十七日

染織講社御中

小松内地向絹人絹織物
同業組合

染織祭記念品受領ノ件

本月二十三日附御送附ノ標記記念品本日有難落掌仕候間此段及御
案内候也

石川縣小松織物同業組合

拝啓愈御清榮奉慶賀候毎々格別の御引立を蒙り難有厚く
御禮申上候陳者兼て御預け相願ひ居り候定期御預金の義
來る七月六日期日と相成候に付ては引續き御預け入
れの程特に御配慮願上度尚此際多少に不拘御増額被下候
はゝ幸甚の至りに奉存候
右御通知旁御依頼申上度如斯御座候

敬具

昭和拾六年六月廿七日

株式會社 三菱銀行京都支店
支店長 鈴木益三

染織講社
理事長 山崎隆義 殿

追而右期日は休日に付其翌日以後に願上度爲念申添候

再拜

株式會社 三菱銀行京都支店

拝復愈御清榮奉慶賀候陳者此ノ八日附御送付被成下候
左記書類本日正ニ入手御手數ノ段奉謝候
先ハ右御請迄如斯御座候 敬具

昭和拾六年七月九日

染織講社
理事長 山崎隆義 殿

記

一改印届 新印鑑 各壱葉

411

辞任届

今般染織講社理事ヲ辞任仕度此段及
御届候也

昭和十六年八月八日

長谷川市三 私儀

染織講社
會長 加賀谷朝藏殿

長谷川市三

48

昭和　年　月　日決裁　昭和十六年八月九日発行　淨寫者　校合者

昭和十六年八月九日起案　起案者

會長
副會長

理事長

常任理事
理事

幹事

理事會承認ノ件

年　日ノ

理事長

理事殿

拙稿愈淨書濟ニ付茶ニ別紙之通リ記ノ件ニ付来ル八月十九日午後三時南禅

稟議用紙　染織講社

寺無隣庵ニ於テ理事會承認可被
下度尚當日ハ折柄ノ場所ニ付
御帶等ハ被為無用
ト

記

一、時代衣裳倉庫建設ノ件

陳手七　山崎助役
當町役場收入役　岡崎勝
當町役場書記　山川乙吉郎
當町役場書記　田場當二郎
當町役場吉田忠高
陳手　岩村史朗
鳥丸四条元九江条都右
陳手　伊美太一郎
會津川通大宮条入
西陳織物工業組合
長谷川市三代

京都高等會議所　吉水順孝
京都市商工課　伴村隆志郎
京都市営繕部七条橋の北郎
京都市廣告課　阿波清志郎

13

49

發西工第九二四號
昭和拾六年八月二十八日

染織講社 殿

西陣織物工業組合
理事長退任就任ニ関スル件、

拝啓時下益々御清栄之段奉大賀候
陳者今般京都府ノ御指示ニ依リ左記織物工業組合ヲ本組合ニ整理統合シタルニ伴ヒ理事長長谷川市三ハ任期満了ヲ機會ニ退任シ新ニ理事細井恒次郎理事長代理トシテ就任致候條御了知相成度
此段御通知申上候也

記

西陣天鵞絨工業組合
京都輸出人造絹織物工業組合
京都ステープルファイバー織物工業組合
京都絹織物工業組合
山城綿織物工業組合
伺底織物工業組合
山城模地工業組合

追而本文ノ如ク本組合外七組合ノ整理統合ナルモ其ノ形式上ノ手續ハ本組合以外ノ七組合ヲ解散シ其ノ解散組合ノ組合員ガ個別ニ本組合ニ新ニ加入スル方式ヲ採リタルニ付本組合ノ権利義務ニ付テハ從前ト何等変ルコトナキニ付御了知相成度申添候

4-4 庶務一件 昭和16年

50

昭和　年　月　日決裁　昭和　年　月　日發行　淨寫者　校合者

昭和十六年九月二日起案

會長　代
副會長

理事長　代

常任理事
理事

起案者

幹事

理事會、評議員會提出議案
一件伺

一時代表當店事建築一件
二號入會ニ關スル件
三昭和十七年度第八出張所業一件
四昭和十六年度第八出張所業一件

染織講社

稟議用紙

右理事會、評議員會ニ提出ノ事ニ
付、裁可ヲ

昭和　年　月　日決裁　昭和　年　月　日發行　淨寫者　校合者

昭和十六年九月四日起案　起案者

會長
副會長

理事長

常任理事
理事

幹事

理事退職ニ付記念品贈呈ノ件

西陣織物業組合理事長谷川市三氏ハ今般組合理事長退職ニ付本講社理事ノ職モ辞シ去ル八日限リヲ以テ退任ノ申出アリ本講社ニ尠カラサル貢献アリシ事ニ鑑ミ記念品贈呈ノ件ヲ評議員会ノ議ニ付シ可然哉

稟議用紙

染織講社

昧シテ金百五拾円以内ニテ記念品贈呈ノ事ヲ請フ

5/

昭和　年　月　日決裁　昭和十六年十一月五日発行　浄寫者　校合者

昭和十六年十一月五日起案　起案者

會長
副會長
理事長
常任理事
理事
幹事

稟議用紙

染織講社

京都府商工課長由雄又次郎氏ヨリ申請社團法人設立ノ件

別紙設立趣意書、寄附行為、設立認可申請書、役員名簿、財産目録、事業計畫書、収支豫算書ノ通リ京都府商工課ヨリ送付シ来リ候ニ付テハ當社ハ昭和六年創設以来染織意匠ノ研究ニ努メ来リ又染織講習會ヲ開催シ染織業ヲ学ブ者ニ対シテハ実地ニ就キ指導ヲ為シ来リ候ヲ以テ本件設立ニ賛成シ度ク存ジ候ニ付キ御許可相成リ度ク此段稟議ス

昭和十六年十一月五日

染織講社會長　名

京都府知事　殿

由雄又次郎

4-4　庶務一件　　昭和16年

染織講社趣意書

染織ニ關スル技術ハ世界各國ヲ通シ共涸源極メテ古ク我國ニ於テモ原始時代ニ既ニ其ノ道ノ開ケタリシハ想像ニ難カラサル所ニシテ其後歴史文化ノ影響ト洗練陶冶トヲ經テ漸次發達ノ域ニ進ミ殊ニ近代科學ノ進歩ハ機械ノ應用ヲ促進シ以テ今日ノ隆盛ヲ見ルニ至レリ染織業ハ今ヤ我國産業ノ樞位ヲ占メ其消長ハ國家又國民經濟上極メテ重大ナル關係ヲ有スルニ至リタルハ多言ヲ要セサル所ナリ抑々斯業ノ淵源ハ遠ク神代ノ昔ニ發セルハ明カニシテ吾人ハ始メテ染織ノ道ヲ拓キ之ヲ後世萬民ニ傳ヘ給ヒシ染織諸祖神ノ神恩ノ宏大無邊ナルヲ思ハサルヲ得ス殊ニ本府ニ於ケル産業ハ染織及之レニ關聯セルモノ其ノ樞軸ヲ占メ直接及間接之ニ依リテ生活スル者他地方ニ比シ實ニ多大ニシテ前記諸神ノ神恩ニ浴スルノ程度亦一層深シト謂ハサルヘカラス

然ルニ由來我京都ニハ四季ヲ通シ各神社ノ盛儀ナル祭事行ハレツヽアリト雖モ未タ府民ニ最モ關係深キ染織祖神ニ感謝ノ意ヲ捧クヘキ祭祀ニ乏シカリシハ誠ニ識者ノ深ク遺憾トセシ所ナリ依テ茲ニ有志相諮リ左記規約ニ依リ染織講社ノ設立ヲ發起シ毎年陽春ノ季ヲトシ染織祭ヲ行ヒ以テ我國染織諸祖神ノ御神徳ヲ宣揚シ其ノ洪恩ノ萬分ノ一ニ報ユル所アラムトス

冀クハ大方ノ諸賢奮ツテ本講社ノ趣意ニ翼賛加盟セラレ以テ其ノ所期ノ目的ヲ達成セシムル爲協製アランコトヲ

祭神

天棚機姫神　天羽槌雄神

天日鷲神　長白羽神

津咋見神　保食神

栲幡千々姫命　呉織女（合祭）

漢織女（合祭）

染織講社規約

（昭和六年二月十六日設立）
（昭和十五年十二月六日改正）

第一條 本講社ハ染織講社ト稱ス

第二條 本講社ハ染織祖神ノ神徳ヲ宣揚シ敬神尊祖ノ美風ヲ涵養スルヲ以テ目的トス

第三條 本講社ハ前條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フ

一、染織祭ノ擧行

二、前項ト關聯スル施設

第四條 本講社ハ本部ヲ平安神宮内ニ置ク

第五條 本講社ハ第二條ノ目的ヲ翼賛スル者ヲ以テ之ヲ組織ス

第六條 本講社員ヲ左ノ三部ニ分ツ

第一部　染織業者ノ團體

第二部　染織ト關係アル團體

第三部　特ニ本講社ノ事業ヲ翼賛スル者及其ノ團體

第七條 本講社ニ加盟セントスル者ハ其ノ氏名（團體ニアリテハ代表者ノ氏名）ヲ記載シタル書面ニ依リ其ノ旨本會ニ申込ムヘシ

第八條 本講社ニ左ノ役員ヲ置ク

會長　一名
副會長　一名
評議員　若干名
理事長　一名
理事　九名

會長ハ理事中ヨリ常任理事一名ヲ定ム

第九條 會長ハ京都市長、副會長ハ京都商工會議所會頭トス

評議員ハ會長之ヲ委囑ス

理事長ハ京都市助役、理事ハ西陣織物工業組合代表者一名、日本染織物見本市協會代表者一名、京都府一名、京都市二名、京都商工會議所一名及染織ト關係アル業者中ヨリ三名ヲ以テ之ニ充テ會長委囑ス

第十條 本講社ニ名譽會長及顧問ヲ置クコトヲ得

名譽會長ハ京都府知事ヲ推戴シ顧問ハ評議員會ノ承認ヲ得テ會長之ヲ囑託ス

第十一條 會長ハ本講社ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

評議員ハ講社ノ機務ニ參與ス

理事長ハ講務ヲ掌理シ會長、副會長共ニ事故アルトキハ之ヲ代理ス

理事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ講務ヲ處理ス

第十二條 役員ハ凡テ名譽職トス

第十三條 本講社ノ會議ハ評議員會及理事會ノ二種トス

評議員會ハ毎年十二月會長之ヲ招集ス、但シ臨時必要アルトキハ其ノ都度之ヲ招集ス

理事會ハ會長及理事長ニ於テ必要ト認メタルトキ之ヲ招集ス

第十四條 評議員會及理事會ノ議決事項左ノ如シ

評議員會

一、規約ノ變更

二、豫算ノ議決及決算ノ承認

三、講務ニ關スル報告ノ承認

理事會

一、事業ノ執行ニ關スル事項

二、評議員會ニ附議スヘキ事項

三、會長及理事長ニ於テ必要ト認メタル事項

第十五條 本講社ノ經費ハ各講社員ノ分擔醵出シタルモノ及寄附金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條 本講社ノ會計年度ハ曆年ニ依ル

第十七條 本規約ノ施行ニ必要ナル細則ハ理事會ノ議決ヲ經テ會長之ヲ定ム

染織講社規約施行細則

（昭和六年三月制定）
（昭和十三年一月改正）

第一條 本講社ノ事務所ハ當分ノ間京都市役所産業部商工課内ニ置ク

第二條 本講社ニ於テ行フ染織祭ノ日時及式場ハ理事會ノ議決ヲ經テ會長之ヲ定ム

第三條 本會ニ主事一名事務員若干名ヲ置キ會長之ヲ任命又ハ囑託ス

第四條 主事ハ上司ノ命ヲ承ケ講社ノ事務ヲ處理ス

事務員ハ上司ノ命ヲ承ケ庶務、會計事務ニ從事ス

第五條 會長ハ祭典ニ關シ事務ヲ處理スル爲メ毎年左ノ委員ヲ設ケ之ヲ分擔セシムルモノトス

一、式典委員

二、祭典委員

各委員ニ委員長ヲ置ク

第六條 委員長ハ會長、理事長ノ指揮ヲ承ケ委員ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ所屬ノ事務ヲ處理ス

4-4　庶務一件　　昭和16年

昭和　年　月　日決裁　昭和　年　月　日發行　淨寫者　校合者

昭和十六年十月六日起案

會長
副會長

理事長

常任理事
理事

起案者

理事会開催ノ件

十月　日

理事

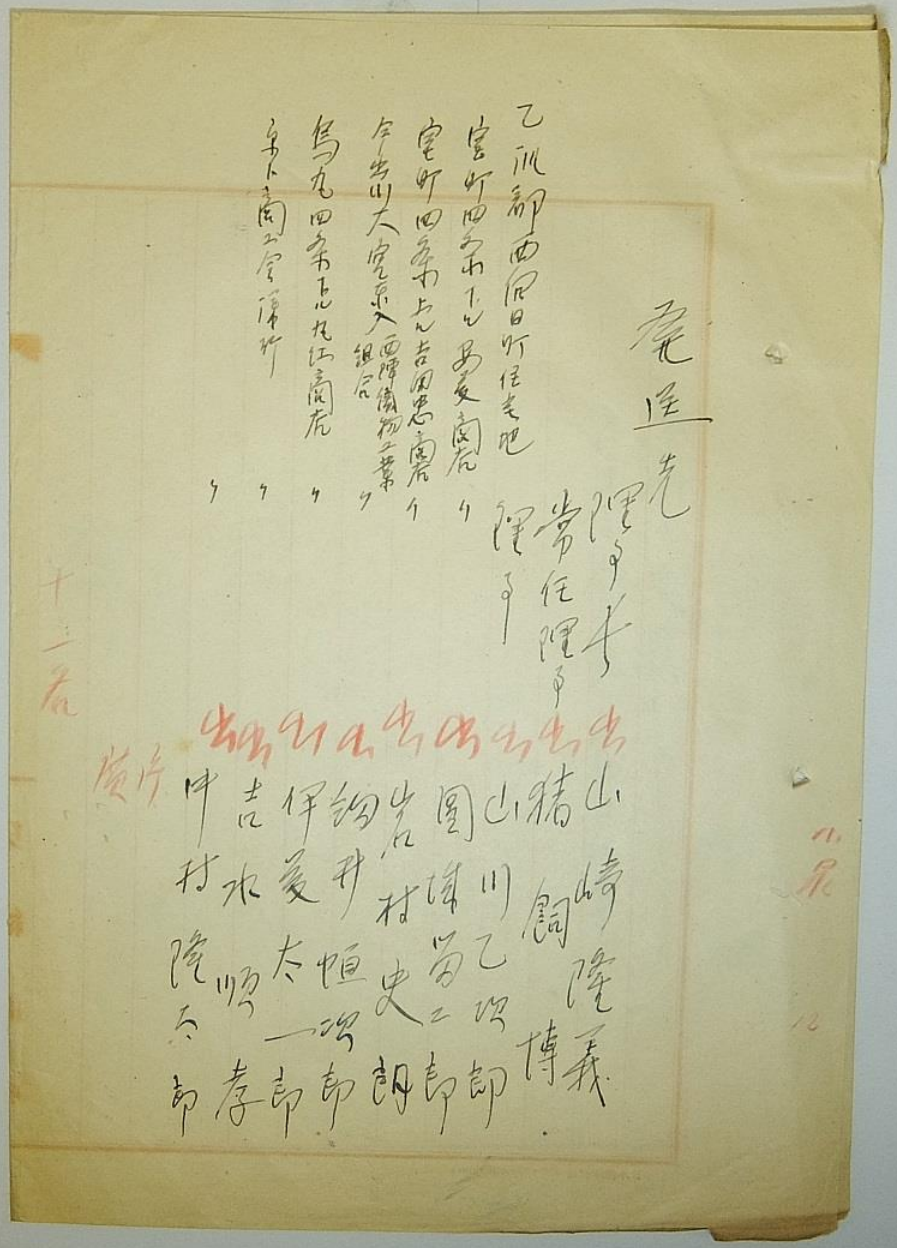
標記ノ件別紙諮問書ヲ附シ左記ノ理由ヲ以テ理事会開催ノ為メ招集相成度

記

一昭和十七年度染織業ニ関スル講習会開催ノ件
一時代衣裳保管倉庫建設ノ件
一繰入金ニ関スル件
一昭和十七年度講習生募集ノ件
一昭和十七年度入学並ニ卒業ノ件
一少吁踊奉納ノ為メ場者ヘ謝礼ノ件
一昭和十五年度第八号決算報告ノ件

以上

稟議用紙　染織講習社



4-3

昭和　年　月　日決裁　昭和16年11月1日発行　浄寫者　校合者

昭和十六年十月十一日起案

會長
副會長

理事長 代

常任理事

理事

起案者

評議員會承認ノ件

昭和　年　月　日

評議員各位

標記ノ件別紙ノ通リ評議員會ノ承認ヲ經タリ

追テ本件ニ關スル書類ハ別紙ノ通リ送付ス

記

一、染織講習會開催ニ關スル件

一、染織講習會豫算ニ關スル件

一、染織講習會規則ニ關スル件

一、染織講習會講師ニ關スル件

一、染織講習會講師謝金ニ關スル件

一、染織講習會講師旅費ニ關スル件

一、染織講習會講師宿泊料ニ關スル件

一、染織講習會講師交通費ニ關スル件

一、染織講習會講師手當ニ關スル件

一、染織講習會講師慰勞金ニ關スル件

一、染織講習會講師送別會ニ關スル件

一、染織講習會講師歡迎會

評議員會議案

一　時代衣裳保管倉庫建設ノ件

二　繰入金ニ關スル件

三　昭和十七年度歳入出豫算ノ件

四　昭和十五年度歳入出決算ノ件

4-4　庶務一件　　昭和16年

54

昭和十六年十一月廿五日決裁　昭和十六年十一月廿五日發行
昭和十六年十一月廿四日起案

會長
副會長

理事長

常任理事
理事

起案者

淨寫者

校合者

幹事

稟議用紙 ― 染織講社

江戸刺繍小吹踊實施ノ件

昨日ノ染織講社會長名義ヲ以テ別紙ノ通リ部賞金數ヶ條ヲ御示シ有之候ニ付テハ右ニ依頼ノ通リ實施ノ事ニ致度ト存候ニ付テハ右ニ依頼ノ通リ實施ノ事ニ致度ト存候

記

一、實施日時　四月十日午前十時
一、場所　市勧業館内
一、舞踊日時　四月十日午前十時
一、舞踊出場者休憩所　市勧業館二階

衣裳更衣所　市厨業館二階

兼通者指導者　猪熊課長

出雲路敬豊氏

但シ衣裳ハ付属品ハ当日午前九時迄ニ

勤業館二階当場ニ持参スルコト

当日ハ都合ニ依リ運搬

55

昭和　年　月　日決裁　昭和十六年十一月二日發行　淨寫者　校合者

昭和十六年十一月一日起案　起案者

會長
副會長

理事長

常任理事

理事

幹事

補助金申請ノ件

年月日

京都府知事
京都市長　宛

京都商工會議所會頭

十一月二日

十一月二日附ヲ以テ申請ノ補助金ニ關シ別紙ノ通リ決定相成候條此段及通知候也

十一月二日

京都商工會議所

稟議用紙　染織講社

諸般ノ商況ニ鑑ミ本講社ノ業務ノ運營ニ付テハ一方ナラヌ御援助ヲ蒙リ深ク感謝ノ意ヲ表シ度キ處ニ御座候ニ付テハ今回下名ノ手數料ヲ以テ金百圓也ヲ寄附シ度キ旨ノ申出アリタルニ付テハ本講社ノ業務發展ノ爲メ有難ク之ヲ受納シ度キ旨ノ稟議ヲ仰ギ候也

十一月二日

染織講社

京都市

京都商工會議所會頭

補助申請金額　金五百圓也

金壹千圓也

京都府知事

京都市長

京都商工會議所會頭

昭和十七年度染織講社歳入出豫算

4-4　庶務一件　　昭和16年

歳入

一金壹萬壹千百六拾圓也　経常部
一金四千圓也　臨時部
合計　壹萬五千百六拾圓

歳出

一金壹萬壹千百六拾圓也　経常部
一金四千圓也　臨時部
合計　壹萬五千百六拾圓

歳入出殘金ナシ

昭和十七年度染織講社歳入出豫算

歳入經常部

科目	本年度豫算額	前年度豫算額	増△減	説明
講習員分擔金	六、一五〇圓	六、一五〇圓	- 圓	個人講社員 一〇〇口一口五圓 此金 一、〇〇〇圓 團体講社員 一九口一口五〇圓 此金 二八五圓
補助金	四、〇〇〇	四、〇〇〇	-	市 三、〇〇〇圓 會 一、〇〇〇圓 府 一〇〇圓
前年度繰越金	一、〇〇〇	一、〇〇〇	-	
雜収入	一〇	一〇	-	
計	一一、一六〇	一一、一六〇	-	

歳入臨時部

科目	本年度豫算額	前年度豫算額	増△減	説明
寄附金	四、〇〇〇圓	一、〇〇〇圓	三、〇〇〇圓	倉庫建設費ニ繰入
計	四、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇	

4-4　庶務一件　昭和16年

歳出經常部

科目	本年度豫算額	前年度豫算額	增△減	說明
事務費	一、五五〇	一、五五〇	—	備品費、消耗品費、印刷費、通信費、電話費、手當、傭人料、雜費
會議費	六〇〇	六〇〇	—	理事會、評議員會、式典委員會、評社員募集委員會費
式典費	一、〇〇〇	一、五〇〇	△五〇〇	式場設備費、式典費
祭事費	三、〇〇〇	三、〇〇〇	—	講社員、來賓、接待費、謝印刷費、通信費、傭人料、衣裳手入費、祭事關係者謝禮、心付其他雜費
雜支出	一、五〇〇	一、五〇〇	—	講社員募集手數料、衣裳保險料、其他雜支出
衣裳補修費其他	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	
計	四、〇〇〇	—	四、〇〇〇	

歳出臨時部

豫備費	一、五一〇	一、〇一〇	五〇〇
計	一一、一六〇	一一、一六〇	—

倉庫建築費	三、五〇〇	—	三、五〇〇
雜費	五〇〇	—	五〇〇
計	四、〇〇〇	—	四、〇〇〇

時代行列衣裳保管倉庫十坪建設費

倉庫内設備費及其雜費

57

昭和十年十月廿五日決裁　昭和十年十月廿七日発行　浄寫者　校合者

昭和十年十月廿七日起案　起案者

会長　副會長　理事長　常任理事　理事

市公會堂東館及構内地一部記念
使用ノ件申請

年月日

東都市長　宛

染織講社會長
東都市長　名

明治四十四年四月十日本講社ヨリ建築献納
ノ東館及構内地一部ヲ左記期日ノ通リ使用
可致候ニ付テハ公會堂使用トニ重ニ公會堂東館及構内地一部
例年通リ左記期日ノ条件使用ノ承認申請
可致ヤ

記

一　東館一階全部及二階貴賓室及階下廊下
一　構内地　元東館跡地及其全部
一　使用期日　昭和十七年四月七日ヨリ十一日迄
一　使用料　免料

以上

染織講社

4-4　庶務一件　　昭和16年